



愛知陸協広報

第 24 号

平成 24 年 1 月 1 日発行

愛知陸上競技協会

〒460-0012 名古屋市中区千代田二丁目 19 番 16 号千代田ビル 7F

電話 (052) 249-4363 ファックス (052) 249-4366

e-mail ark@marble.ocn.ne.jp

ホームページ: url <http://www.aichi-rk.jp/>

2012年に期待して

理事長 外山 幸男

2012年オリンピックイヤーを迎え、愛知陸上競技協会は大きく変わる年になります。昨年の反省と本年の展望を述べさせていただきます。

まず昨年の事業を省みますと、一昨年に引き続き日本ジュニア・ユース選手権大会の運営に当たりました。前年より一週間遅い日程で気温を心配しましたが、若干の雨が降ったものの例年以上に温かい天候に恵まれ、素晴らしい大会で終えることができました。前回の反省を生かし、田辺陸上競技場が名古屋市と日本陸連のおかげで整備でき、投てき練習場として使用しました。参加選手の安全面から大変有難いことです。大会の結果を見ると、ジュニア大会新記録2、ユース日本最高記録1・大会新記録26・大会タイ記録1、日本高校新記録が1つ誕生しました。地元愛知の選手も JOC ジュニアオリンピックカップ受賞者(=最優秀選手)、男子ジュニアハンマー投の墨訓熙選手をはじめジュニア男子棒高跳(近田竜雅)・ユース女子100mH(萩原加奈子)の3種目に優勝する活躍をしました。

山口国体は少年の多数入賞の活躍に加えて成年も実力を発揮し、天皇杯4位と、陸上王国愛知復活の兆しが見られました。今年の岐阜国体での飛躍につながるものと確信しています。

ジュニアオリンピック大会では、女子4×100mリレーの県選抜チームが大会新で2位に入賞したことが特筆されます。また個人でも、男子A200mで城山の村瀬翔太選手が、女子C100mで栄の掛川葉選手がそれぞれ優勝しました。小中体連として今後さらに高い目標に向かってステップアップし、平成25年に愛知で開催の全日本中学校陸上競技選手権大会での活躍につなげてほしいものです。

さて、愛知陸上競技協会は一般財団法人として、2月初旬にスタートを切る準備を整えております。理事会と新年の評議員会の承認を得て正式に決定します。愛知県の陸上競技界を統括し代表する団体として、陸上競技の普及と振興、競技力向上を図り、県民の心身の健全な発達に寄与することを目的としています。法人化により、今以上に愛知陸上競技協会運営の公益性・公明性が保証できるものとなります。

次に、3月11日に、名古屋ウィメンズマラソン2012をメインとする「マラソンフェスティバル ナゴヤ・愛知2012」の開催です。昨年、東日本大震災により中止になった名古屋国際女子マラソンの思いを引き継ぎ、復興へ元気を発信できる新たな大会となることを大いに期待しています。名古屋ウィメンズマラソンは、募集開始5日目に1万5千人の定員を越え、予想より大幅に早く締め切りしました。ロンドンオリンピックの日本代表選考競技会でもあるエリートの部の締め切りは2月1日までとなります。スタート・フィニッシュをナゴヤドームとし、名古屋の中心街を走るコースになり、制限時間7時間1分のため、大会運営には多数の競技役員と走路関係にボランティアの皆さんの協力が必要となります。これから大会まで各委員会を中心に準備に拍車がかかります。

新年早々の、都道府県対抗女子駅伝(京都:1月15日)・男子駅伝(広島:1月22日)の選手団が決定しました。代表の選手は「チーム愛知」のもとに、優勝を目指して「たすき」をつないでくれることを期待します。

愛知陸協の専門委員会は土日の活動をはじめ、平日には夕刻からの委員会、準備等により、協会の運営を支えております。今後も連携をとっての活動をお願いします。

一人でも多くの陸上関係者が満足できる1年になることを願い、今年も選手の活躍と競技会運営に一層のご協力をお願いします。

國分一郎氏瑞寶雙光章受章

平成23年度秋の叙勲において、愛知陸上競技協会國分一郎名誉副会長が「瑞宝双光章」(教育功労・スポーツ振興功労)を受章されました。この度の栄誉に愛知陸上競技協会一同、こころよりお祝い申し上げます。受章にともない、勲記勲章伝達が11月10日(木)国立劇場にて、文部科学副大臣より行なわれました。その後皇居で皇太子様に拝謁され、つづいて文部科学省に向かわれ、文部科学大臣室で大臣と会見もされたそうです。今後益々のご活躍をお祈り申し上げます。



支 部 報 告

名古屋支部

名古屋支部の特色は、名古屋市内、名古屋市周辺、知多と広い地域での活動で、競技者・審判登録者数も多く、なかなかまとまりが難しい支部です。その一方、多方面で県陸協を多く支えている支部でもあります。

今回は、名古屋市と関係の深い名古屋市陸上競技協会の主な事業を紹介します。名古屋市、名古屋市教育スポーツ協会等委託事業が中心で、いずれも参加者が多く、準備・運営は大変ですが、担当者中心に全員で協力していただいています。()は担当者名

- ①ジュニア強化練習会(谷口) ②審判養成事業(小森)
③市民スポーツ祭(桑原) ④ねんりんピックくまもと大会(水野) ⑤愛知駅伝名古屋市チーム(坂井田・木全)
⑥名古屋市身障者大会(水野) ⑦なごやカップミニ駅伝(青木・小森) ⑧ふれあい陸上教室(木全・可知) ⑨スポーツフェスティバル(可知) ⑩ワンポイント陸上教室(浜島)

ねんりんピックくまもと大会報告(水野隆夫副理事長)

10月15日～17日に、名古屋市からマラソン交流会に7名参加しました。水野隆夫監督、10km70歳以上の部に干場幸蔵、10km70歳未満の部に石原勇一、5km70歳未満の部に、岡俊治・諏方房子(5位入賞)、3km70歳未満の部に、貝沼俊秋(8位入賞)・高見正の各氏です。

ゲストランナーに鈴木博美さんを迎え、20度を超える高い気温の中、各レースがスタートしました。

最高年齢者94歳を筆頭に全員60歳以上。しかし、各県市の代表らしく激しい先頭争いをする選手も多数みられました。一方で、全国健康福祉祭と銘打ったこの大会の趣旨にそって、健康というテーマを軸に他県の選手との交流を深めることに重点をおいて参加した人も数多くいました。従って、レース中に声を掛け励まし合い、手を取り合って笑顔でフィニッシュする光景に、待ち受ける家族や親友、その他の多くの人たちは温かい拍手を送っていました。本市の選手団も、干場主将を中心に過去6回の合同練習を通して選手間の結束も高まり、意気盛んにレースに臨み、多くの成果をあげました。

名古屋支部理事会報告

11月29日(火)に瑞穂陸上競技場会議室で24名の参加で開催し、建設的な意見が多く出て慎重に審議を重ねました。主な内容は、以下の通りです。

<協議事項>

- ◎法人化に伴う名古屋支部名称変更について
名古屋支部⇒名古屋地区陸上競技協会
- ◎法人化に伴う名古屋地区評議員3名の選出について
竹内伸也氏、竹内信雄氏、坂井田醇三氏
- 平成24年度名古屋地区競技会日程案
- 年度内総会開催(3月末)を旨として
3月25日(日)午前 理事会 午後 総会
- 審判伝達講習会開催日予定案
3月23日(金)夜 25日(日)午後
- 名古屋市民スポーツ祭の種目検討(総務+競技+審判)
*来年度有料オープン種目(ナイター開催)の検討

- 平成23年度愛知県体育協会表彰候補者推薦について
- 平成23年度審判昇格・日本陸連各栄章候補者推薦について
- その他

<報告事項>

- 10月支部常務理事会報告
- 名古屋支部審判報償について
- マラソンフェスティバル ナゴヤ・愛知2012について
①審判員(名古屋支部)の参加の呼びかけ
②ボランティア募集について
- 各委員会の組織化(メンバー一覧の作成)
- 平成23年度支部会計中間報告
- 平成24年度名古屋地区競技会要項案作成について
理事長・副理事長・競技・総務・審判で検討委員会を設置する。
- その他
・陸上教室(瑞穂・半田会場に高平慎士選手招聘)
・強化練習会
- 専門委員会活動報告
①総務委員会(水野) ②競技委員会(桑原) ③審判委員会(小森) ④記録・情報委員会(水谷) ⑤施設用器具委員会(砂子間) ⑥選手強化委員会(鈴木) ⑦普及委員会(木全) ⑧会計(大野木)

(青木 実)

尾張支部

上半期を終えて

上半期表彰選手について…23号では掲載できなかった支部所属の中高生諸君の活躍ぶりを紹介します。尾張支部は上半期と下半期に分けて全国大会に参加した選手の表彰を行なっています。情報については既に中体連、高体連の広報でも紹介されていますが、下記一覧になります。

第64回全国高校総体陸上選手権大会(岩手北上)8/3～8/7(敬称略)

1	戸松 弘成	一宮西3年	5000mW	決勝3位	21.30.33
2	墨 訓熙	起工3年	ハンマー投	決勝2位	62.72
3	近藤 瞳	津島北3年	砲丸投	予選	11.69
			円盤投	決勝12位	38.66
4	後藤 鞠枝	津島3年	4×400mR	予選3位	3.54.79
5	櫻山 楓	津島2年			
6	棚橋 美幸	津島2年			
7	平野 杏奈	津島3年			
8	林 あかり	津島1年			
9	畔柳 綾	津島1年			

第38回全日本中学陸上選手権大会(奈良)8/20、21(敬称略)

1	秋江 洋志	AC一宮	100m	予選2位	11.16
		萩原3年		準決4位	11.15
2	宮田 暁生	宮田3年	800m	予選7位	2.02.99
3	坂本 達哉	奥3年	走高跳	予選	記録なし



墨君 ジュニア優勝

高校生では、全国大会以降、先の中体連全日本ジュニア・ユース大会で男子ハンマー投の墨訓熙選手が優勝という快挙を成し遂げました。記録も自己記録を大きく上回る大会新記録(66m38)というおまけ付きです。彼の快進撃はこの秋口になって一気に頂点を極めました。おめでとう。そして下半期は新たに全国規模の大

クラブ紹介⑱ TEAM KAKERU ～ハートで走れ! TEAM KAKERU～

「TEAM KAKERU」は2008年春に発足しました。もともと各々で走っていたランニング仲間が集まり、「チームを作って名岐駅伝を目指して走らないか?」と声を掛け合ったのが発足のきっかけです。チームの名の由来は、走るという意味の「駆ける」、名岐駅伝に出場して、実業団、他のクラブチームと勝負をするという夢を「架ける」、走ることに情熱を「懸ける」、勝負に想いを「賭ける」などさまざまな意味の「かける」です。そして「熱い想いをもって最後まで全力で走る」です。これは、チーム発足当初、年齢が20代後半のメンバーがほとんどだったため、走ることが好きで、もう一度若かった頃(中・高校生、学生の頃)の熱い想いをもって走る、という意味も込められています。記録だけを重視したり、速く走ることを目標にしたりするチームではなく、今の生活、仕事、家族を大切にしつつ、人生を楽しく生きるために、仲間と走る、ということチームの基本方針としています。発足から4年が経ち、今年度は29名が陸協登録をしています。発足当初は8名ほどで、全員が長距離専門でしたが、今は年齢層も10代から40代へ広がり、短距離、跳躍を専門とするメンバーも在籍しています。

メンバーは学生や社会人など職業も様々です。基本的な練習は各自で行なっていますが、年間を通して各種選手権や記録会、マラソン大会への出場、夏合宿の企画・実施、中山道駅伝・西濃駅伝等各種駅伝にチームでメンバーを組み出場しています。そしてまだ出場を果たしていない名岐駅伝へ向けての予選会である、12月の「駅伝カーニバル」へは、試走会や練習会を短期で設定しています。この情報誌が発行される頃には、今年度の予選会の結果が出ていると思いますが、チーム結成から4年が経ち、今年度はメンバーも充実し過去最高の状態で予選会へ臨めそうです。



2011年東海選手権で力走する井上圭人選手と田淵照人選手

メンバーの中には、井上圭人選手と田淵照人選手が3000mSCで3年連続東海選手権出場、倉内誠司選手がトライアスロン2011エイジランキング総合1位、エリート2011NTTジャパンランキング21位と個人でも結果を出しています。また、12月の愛知駅伝では、西尾市(2011年に吉良町、一色町、幡豆町と合併)、碧南市、高浜市のそれぞれの世代の代表として多くの選手が走っています。また学生時代に5000mを14分台で走っていた選手や800mを1分52秒台、1500mを3分台で走った選手も在籍しており、社会人になっても再び学生の頃を越えるパフォーマンスが出せるように、日々トレーニングに励んでいます。

また西尾市を拠点とした「西尾で真剣に走る会」を「TEAM KAKERU」の発足と同時に立ち上げ、毎週木曜日の夜7時30分から9時まで、西尾市にある西尾市総合グラウンドでナイター練習をしています。平日、仕事が終わってそれぞれ時間を作って、有志で集まり練習をしています。こちらの会は4年がたちフルマラソンのベストタイムが2時間30分を切るタイムで走るランナーから、ダイエットのためにランニングを始めたばかりの若い女性まで、会員数がのべ100人ほどになっています。下は2歳から上は今年70歳を迎えた方まで、毎週30名ほどの方々がグラウンドに集まり、それぞれのレベルに合ったトレーニングでランニングを楽しんでいます。他にもバーベキュー大会や新年会、結婚などの行事の時には皆で集まり祝賀会を開催するなど、競技のレベルや年齢性別を越えて、仲間とのつながりを楽しんでいます。陸上競技は個人競技である面が強いです、ひとりひとりの生活、人生を皆で大切にできるチームでありたい、と思っています。

まだまだ発足したばかりで歴史の浅い若いチームです。今、肩にかけている襷が若い世代へとつながっていくようにチームメイトを想い、家族の理解を得て、走り続けていきたいと思っています。

最後になりましたが、このような紹介の機会を下さった愛知陸協の皆様、私たちの活躍を応援して下さる皆様に感謝し、筆を置かせていただきたいと思ひます。掲載させていただきました写真をよく見ていただくと、多くの人が皆の背中を押して下さっているように見えるのではないのでしょうか。

「TEAM KAKERU」HP アドレス → <http://teamkakeru.web.fc2.com/index.html>

(岸本 寛)

会に参加した選手の表彰を3月の総会にて行ないます。

去る11月19日に実施された愛知中学駅伝では昨年に引き続き、女子の部で祖父江中が2年連続優勝を果たし全国への出場権を得ました。メンバーには2年生が3名入っての快挙です。本当におめでとうございます。この駅伝ではさらに女子の部で古知野中(8位)、男子の部



スポレクマスターズ陸上

で宮田中(7位)、岩倉中(8位)と3校が入賞しました。日頃の練習の成果が十分に発揮された結果だと思います。駅伝シーズンを迎えた今、より一層の活躍を期待してやみません。

さて、この秋は3年目を迎える愛知スポ・レクマスターズ陸上大会も無事に終了することができました。30代から70代後半までの老若男女100



ハンマーサークルゲージ



2010年駅伝カーニバルの後、選手、応援の集合写真



2011夏、「西尾で真剣に走る会」のバーベキュー大会

名余が日頃の鍛錬の成果を発揮されました。今後の一層の精進を望んでおります。

最後に、10月のトラックシーズン最後の支部主催競技会に写真のようなハンマー投げの立派なゲージを整備していただきました。これまで旧競技場から引き継いだもので、安全面に不安がありましたが、晴れて安全で堅牢な施設整備をしていただきました。関係者の方々のご尽力に感謝申し上げます。(原川 豪)

西三河支部

西三河支部で活躍してみえる方の紹介をします。

まず、今夏の韓国テグでの世界陸上、共に高校時代西三河の競技場で活躍した、2名の地元出身者が参加しました。



一人目は昨年度から成長著しい女子短距離の市川華菜選手(岡崎城西高→中京大)です。残念ながら今回はコンディションが万全でなくトラックの上に立つことはできませんでした。しかし、彼女は今年5月、等々力競技場で行なわれた「ゴールデンランプリ川崎」で、日本チームの女子4×100mR第4走者として出場し、日本記録を樹立しました。今回の世界選手権は残念な結果で終わってしまいましたが、是非来年のロンドンオリンピック出場を目指して、頑張ってくれることを期待しています。

もうひと方は、後藤勤トレーナー(岡崎北高→中京大→針院さとう TSS ケアルーム岡崎)です。彼は西三河の大会でも世界規模の大会を経験したトレーナーとして驕ることなく、経験を十分に生かし、個々の選手がベストを尽くせるような的確な指導・アドバイスをしてくれています。さらに、怪我の処置等にも迅速にあたってくれています。選手が安心して競技に臨める陰に、彼らトレーナーの存在があることを忘れてはならないと思います。また、後藤トレーナーは日本代表チームのトレーナーとして、ヘルシンキ、大阪、ベルリンそして今回のテグと連続4回、世界陸上に参加してみえます。是非彼にも来年のロンドンへ市川選手と共に参加してほしいと願っています。

次に、活躍している選手を陰で支えてくださっている大勢の審判員の中から、お一人紹介させていただきたいと思っています。その方は、昭和55年から現在までの32年間、西三河支部での大会の記録・リザルトを作成し続けてみえる現当支部川浪泰郎記録委員長です。

先日、西三河支部のロッカーを開けてみて驚嘆しました。青焼きの用紙に始まり、現在のコピー用紙までのおびただしい競技記録のファイルがきちっと整理された状態で、保管されていました。聞くところによると、先生が整理保管されているとのことでした。こういった努力が、選手を指導している方々に伝わり、多くの優秀な選手が育っていく原動力の一助になっているのだと確信しました。先生は、この記録をもとに、近い将来「西三河記録」「西三河ベスト10」なども作成したいとのことでした。大変ご苦勞な仕事ですが、記録に挑戦する競技だからこそ、より大切な仕事だと感じます。先生のご努力に敬意を表します。(櫻井 一美)

東三河支部

下半期に入ってから東三河の選手たちの活躍

まず10月7日～11日に山口市の維新百年記念公園陸上競技場で行なわれた国民体育大会で、小山裕太君(豊川工業高)が男子少年A5000mで7位、杵名貴輝君(豊川工業高)が男子少年共通5000mWで2位、萩原加奈子さん(豊橋南高)が女子少年B100mYHで3位にそれぞれ入賞しました。

10月21日～23日に名古屋市瑞穂公園陸上競技場で行なわれた日本ユース選手権でも、長田拓也君(豊川高)が男子100mで7位、鈴木舜也君(成章高)が男子走幅跳で6位、萩原加奈子さんが女子100mHで優勝と活躍しました。

10月28日～30日に横浜市の日産スタジアムで行なわれたジュニアオリンピックでは、内山将志君(五並中)が男子Cクラス1500mで8位、中野真琴さん(豊橋東部中)が女子Bクラス100mで4位、第2走者として出場した女子共通4×100mRでも2位にそれぞれ入賞しました。

そして、駅伝シーズンに入っても東三河勢の活躍は続いています。

11月6日に知多市で行なわれた愛知県高校駅伝競走大会では、男子の豊川工業高校が2時間06分51秒で優勝し、12月25日に京都市で行なわれる全国高校駅伝に14年連続14回目の出場を決めました。女子も豊川高校が1時間08分31秒で優勝し、5年連続5回目の出場を決めました。そして、男子では、豊川高校も2位に入賞するなど東三河勢は大活躍でした。

また、11月19日に新城市で行なわれた愛知県中学校駅伝大会では、男子の石巻中学校が57分41秒で優勝し、12月18日に山口市で行なわれる全国中学駅伝に2年連続8回目の出場を決めました。(兵藤 重二)

専門委員会報告

総務委員会

今年度より、一般団体登録及び中学生でクラブ所属者の登録がwebシステム化され、昨年までと大きく変更されました。そこで、この一年を振り返り、来年度に生かすため、各支部の小学生、中学生、高校生、一般の登録担当者に集まっていただき、12月1日(木)午後6時30分より協会事務所で登録担当者会議を開催いたしました。建設的で多くの意見交換ができ、大変有意義な会となりました。来年度は学連を除きweb化を考えておりますが、中学については結論が保留されました。

また、総務委員会を11月26日(土)午後5時45分より開きました。ジュニア・ユースの反省をはじめ、各委員から活発な発言があり充実した時間となりました。今後とも愛知陸協のために一致協力していく意見が多く出されました。昨年実施した都道府県対抗女子駅伝の応援バスを今年も計画しております。大会は24年1月15日(日)で、会場は京都で開催されます。詳細については、愛知陸協のホームページをご覧ください。一人でも多くの方の参加を期待しております。愛知陸協関係者以外の方々も大歓迎です。(稲垣 裕)

学校紹介⑭ 名古屋大谷高校 インターハイ 4×400mリレー7位

今回は、8月に岩手県で行なわれたインターハイで4×400mリレーに7位入賞した名古屋大谷高校を訪問しました。31年間途切れることなくインターハイ選手を輩出し続けていて、最近では7年前の村上智史君(三段跳)の優勝が記憶に残っています。また今年の名南地区の新人戦男子の部において90点を獲得し、2点の僅差ではありましたが、中京大中京高校との争いを制して総合優勝を果たしてもいます。誰もが認めるところの強豪校と言ってよいでしょう。訪問した日はあいにくの雨。これでは十分な取材にならないかなと思いつつ監督の佐々木信彦先生、コーチの吉田達矢先生にお相手していただきましたが、大きな収穫がありました。この収穫を報告します。

選手たちは狭い雨天練習場で補強トレーニングに励んでいたのですが、ひと目見て「えっ?」と思わされたことが二つありました。一つは部員の数です。名南支部大会で90点も獲得したのですから、さぞかし部員数が多いのだろうと私は考えていました。強豪校にはその名を慕って数多くの選手が集まるものでもありますし。しかし、雨天練習場には20名ほどの部員しかいないのです。佐々木先生にお聞きしてみると、雨の日は雨の日なりに練習が組んであり、一人も欠けてはいないとのことでした。佐々木先生からいただいた名南支部のリザルトを見てみると、1位が7種目、2位が3種目、3位が5種目と獲得した得点の多くが上位入賞者で占められていました。少数精鋭というか、しっかりと鍛え上げておられるのだろうと思わずにはいられませんでした。二つめは、トレーニング中のにぎやかさです。あちらこちらから笑い声が聞こえてきますし、この明るい響きが途切れることがありません。部員どうしの仲が良いのだろうとは思いましたが、今まで訪問した学校の多くが黙々と練習をこなしていたのとは大きく異なっていることに驚くばかりでした。最初に感じたこの二つの意外さを中心に、お話をうかがうこととしました。

まずは、部活動の明るい雰囲気についてです。佐々木先生は、「部活動は楽しくなければいけません。選手は、伸び伸びと活動していてこそ強くなっていくのでは」とおっしゃっていました。どうもこの明るさは、顧問の先生の指導方針からきているものようです。私も高校で顧問をしているのですが、以前取材した強豪校のように部員がもっと黙々とトレーニングに励めないものかといらだつこともあります。しかし、部の明るい雰囲気はうまく生かしてやればいいのではと思直しました。佐々木先生によると、名古屋大谷の選手たちは試合の会場でも明るく振る舞い、顔見知りの他校の保護者とも冗談を交わし合っているとのこと。試合の雰囲気にのまれることなく、実力相応の、いやそれ以上の力が出せる精神状態が作れるように導いていくのも顧問の務めかと思わせられました。お話をうかがう中で、名古屋大谷の明るい雰囲気は生徒どうしの仲のよさばかりでなく、日頃のトレーニングからも生み出されているように思われました。それは、トレーニング内容に球技が多く取り入れられていることです。ミニサッカーやフリスビーを使ったパス回しなど。ウォーミングアップに取り入れることはもちろん、本練習の一部にも取り入れているとのことでした。佐々木先生は、球技でインターバルトレーニングに匹敵する効果も得られますよとおっしゃっていました。これはまた、楽しくをモットーとする部活動の一端でもあるのでしょうか。

次に、一人ひとりを鍛え上げていく秘訣についてです。秘訣と言えものでもないのですが、まずは一つめは、体幹トレーニングを重視していることが挙げられます。多くのチームで既に体幹トレーニングは取り入れられていますので、秘訣とも言えないのですがと書きましたが、名古屋大谷高校には体幹トレーニングの秘密兵器が存在していました。選手曰く「台車」です。ホームセンターで市販されているありふれたものですが、これを体幹トレーニングに利用しているチームはそう多くはないでしょう。写真を参考にしてみてください。もう一つは、「フリーライン」と呼ばれる器具です。選手たちはいとも簡単に雨天練習場を滑っていましたが、バランス感覚を養うとともに、太もものどの筋肉を使うと動きが滑らかなかという学習ができ、下半身(特に太ももの内転筋)の筋力アップにもつながるといって一石三鳥の道具です。これも



「台車」による体幹トレーニング

①旋回



②尺取り虫



「フリーライン」によるトレーニング

写真を参考にしてください。練習場で得られたこと以外に、佐々木先生からお話が聞きた中から2点記しておきます。一つは、スプリント系を重視していることです。マイルリレーで全国入賞を果たしたとなれば、400mのロングスプリントを中心に練習していると思いきや、意外にも100m、200m中心の練習をしているのだそうです。400mを100m、200mの延長ととらえるのが佐々木先生の考え方です。もう一つ、大谷高校ではウェイトトレーニングを全くやらないそうです。高校生の発達段階を考えれば、まだやらなくてもよいというのが佐々木先生のお考えのようでした。よくよくお話をうかがってみると、この二つには共通点があって、大学に入ってからさらに伸びてほしいとの佐々木先生の願いからきているものでした。長い目で選手を見る先生の愛情が選手の能力を育んでもいるのでしょう。大学に入ってからロングスプリント系のトレーニング、ウェイトトレーニングに取り組むことで、よりいっそうの飛躍が期待できます。

最後にもう一つ、佐々木先生の言葉で強く印象に残った言葉を記しておきます。それは、「勝つ生活」です。授業中ダラーッとしているような選手がここぞという時に力は発揮できない、常に試合で勝てる生活を送ろうと選手に呼びかけておられるそうです。選手一人ひとりにそのスタイルを考えさせ、選手自身が考えて動くように指導しておられることも名古屋大谷の強さの大きな支えだと思われました。

(取材・文責 大西敏功 写真 佐々木先生)

競技・情報処理委員会

10月21日(金)～23日(日)に日本ジュニア・ユース選手権が開催されました。準備から当日の運営に至るまで、競技・情報処理委員会に協力して下さった皆さんにお礼申し上げます。前回の広報でも触れましたが、今年のジュニア・ユース選手権は、メール申し込みの方法を大幅に改良し、資格審査などの作業の方法も多くの点で見直しました。この結果、作業時間も短縮され、原稿などのチェックも徹底することができました。昨年の反省を集約し、問題点を明らかにし、それらについての対策を早い時期から行なうことができたことが、これらの改善につながったのだと思われます。

日本ジュニア・ユース選手権をはじめ、多くの大会で競技・情報処理委員会の皆さんの協力を得ています。委員会に所属している方は20名ほどで、職業も年齢も様々です。学校の教員の方もいますが、一般企業の方や、主婦の方もいます。それぞれ忙しい時間に都合をつけて、大会の準備などに集まってもらっています。仕事の職種や、選手時代の種目、普段行なっている審判業務の関係でそれぞれの方に得意の分野があり、競技注意事項や時間プログラム、資格審査、プログラムの編集などで、その能力を発揮しています。県内の大会準備では、少人数の方をお願いするのですが、ジュニア・ユース選手権の時は、競技委員会の全員で準備にあたりました。プログラムの編集や団体受付の準備は、競技委員会の手で行ないました。

今後の課題としては、他の大会のメール申し込み化があると思われます。ジュニア・ユース選手権の経験を生かし、県内の大会でもメール申し込みの大会を徐々に増やしていきたいと思っています。そのためにも、多くの方々に競技・情報処理委員会へのご協力をお願いします。

(安田 純久)

施設・用器具委員会

「マラソンフェスティバル ナゴヤ・愛知2012」に向け本格的に開催準備に入っています。開催実行委員会の一員として愛知陸協も頑張っています。新コースは現コースを約70%利用したもので、コース監察員・給水給食係・コース閉鎖地点役員・救護所役員・ボランティアの配置案の検討と交通関係者やコース沿道の地元住民の合意形成等多くの課題を抱えています。一人一人の知恵で、それらを解決して、初めての大マラソン大会を成功させましょう。また、2012年度のトラックシーズンに向けて、担当者を中心に各陸上競技場の施設用器具等の点検をお願いします。

①「第1種・第2種公認陸上競技場の基本仕様の改正」と「公認陸上競技場及び長距離競走路規程」の修正と「陸上競技場公認に関する細則」の改正と「用器具の個数等」の改正が2011年4月1日よりなされました。ルールブックを参照してください。

②10月15日に、中京大学梅村第3種陸上競技場検定を雨の中、検定員の私と桑原技術役員で実施しました。こ



雨の中の検定作業

の陸上競技場の大きな特徴は、バックストレートに逆走可能なライン・標示タイルの設置と3000mSCの水濠がBゾーンにあることです。

③知多ハーフマラソン公認コース検定を12月下旬に実施しました。

④現在工事中の知多第2種陸上競技場検定を3月上旬に実施する予定です。全天候舗装部分が全面オーバーレして、改装されます。詳しくは次号で報告します。

⑤白谷海浜公園(田原市)第4種陸上競技場検定を1月下旬に、豊田第2種陸上競技場検定を3月中旬に実施する予定です。

⑥豊川陸上競技場を新設第3種として、陸連本部検定員と検定員の青木と平川技術役員の名で、2月下旬に検定を実施する予定です。他の競技場にはない工夫がされ、特色のあるものになっています。詳しくは次号で報告します。

⑦日本陸連主催「全国技術役員研修会」が2月11日～12日に開催されます。本県からは桑原技術役員と平川技術役員の名が参加します。器具・ルール等の修改正が主な議題です。

(青木 実)

審判委員会

トラックシーズンも終わり、各競技会の審判業務にご協力いただき感謝しています。

すでに、駅伝、マラソンなどのロードレースのシーズンに入りました。審判の方々には引き続きご協力をお願いします。今年度は、名古屋シティマラソンと名古屋国際女子マラソンが一体となった「マラソンフェスティバル ナゴヤ・愛知」が多く参加者のもで行なわれます。スタートは全てナゴヤドームで、フィニッシュはウィメンズマラソンがナゴヤドーム、ハーフマラソンが白川公園、10kmが瑞穂公園陸上競技場となります。特に、ウィメンズマラソンでは女性だけの大規模マラソンということで、実施後はギネスブックに載るのではないかと思います。この大会には、多くの審判員と多くのボランティアが必要です。もう締め切りが済んではいませんが、審判やボランティアができるという方がありましたら、愛知陸協に連絡をしていただきたいと思います。(TEL 052-249-4363) ご協力よろしくお願いします。

さて5月と10月にB級審判資格取得講習会を2回行ないました。5月に31名、10月には56名、合わせて87名という今までにない多くの方に受講していただき、平成24年4月1日付けで新たに公認審判員の仲間入りをします。ご指導をよろしくお願いします。

23年度のジュニア・ユースの全国大会には、多くの審判員の方々にご協力をいただき無事競技が終了しました。ありがとうございました。来年度もよろしくお願いします。

最後に、毎回お願いをしていますが審判調査はがきの提出と、競技会での審判服装を整えるようにお願いします。

(榊原 茂)

選手強化委員会

第66回山口国体の結果報告と分析

国体種目は2年ごとに見直されます。最悪の結果であった昨年の千葉国体から継続する種目は今年が2年目です。

本年度は岩手 IH で入賞した高校選手が多く、選考した選手がランキングの上位であることと、有力な成年選手が複数いることが大会前の予想で4位という数字になって表れました。

過去3大会の得点予想と結果を平均してみたところ、目標達成率は85.6%でした。国体では目標達成率が順位・結果に大きく関係しますが、昨年は予想順位が低かった上、達成率が平均を下回ったことが不振の原因でした。従って山口国体は達成率を上げること、即ち大会本番で力を出すことができれば、総合順位上位進出も可能であると予想していました。

最終日前日の総合順位が第2位で最終日の得点で優勝の可能性も有りましたが、女子リレーと3000mで得点を重ねたものの同一種目で上位に来た県に逆転を許し、総合結果は予想順位と同じ4位でした。今年のチームの素晴らしさは、目標達成率である100%を上回った点です。以下に示す分析は、それを裏付けるものとしてご報告させていただきます。

上位4県は全て予想を上回る結果でした。力の差は拮抗しているのですがどの県にも優勝できるチャンスはありました。5位の京都はランキング1位でしたが、男子選手の得点が伸びなかったことが順位に影響を及ぼしました。本番で力を発揮することの重要性が再確認できるものです。

男子の得点は2位に大きく差をつけ第1位でした。女子の得点が総合の結果に関係したことがわかります。男子の得点割合が8割近くで女子が2割でした。皇后杯順位22位である女子の競技力向上が課題であることは明らかです。

少年の得点割合が4分の3を占めました。インターハイの結果を反映するもので、本県の重要な得点源は高校生であることがわかります。少年の結果は次年度に継承できないことから、安定した結果を残すためには成年選手の活躍が望まれます。

<総評>

女子の主将で戦力であった市川選手(中京大)の故障、交代は結果に大きな影響を与えました。市川選手に代わるトップ選手不在が根本的な原因です。また、インターハイで活躍した選手の不振や昨年国体を経験した選手が選考の段階で姿を消したことも女子の22位に関係しました。中学、高校、大学と一貫した強化が本県女子選手に求められます。

一方男子選手の活躍はどのブロックも見事でした。中でもここ数年不振が続いた投擲ブロックは出場全選手が入賞を果たしました。ハンマー投で6投目に逆転優勝した墨選手(起工高)と円盤投第2位の越選手(至学館高)、投擲巨漢コンビは互いに合宿から励まし合いながらプレッシャーを跳ね除けての好結果でした。墨選手はインターハイで後塵を拝したライバルを破っての優勝であり、さらに1週間後のジュニア選手権において大学生を破り高校歴代2位の記録で優勝、最優秀選手に選出されました。越選手はインターハイ前のランキング2位の実績で出場し、決勝進出を果たしたものの、精神的な弱さが出て3投フェールに沈んだ悔しさを見事克服してくれました。

ハードルブロックは成年男子400mHで出場を予定していた中村選手(中京大)が故障により急遽選手変更を余儀なくされたアクシデントがありましたが、それ以外の選手は全て入賞しました。少年男子B110mJHで優勝した古元

選手(名古屋高)は直前の県高校新人大会で同学年の選手に完敗した結果を引きずっての出場でした。愛知は代わりの選手がいくらでもいるとの声に奮起した見事な優勝でした。少年女子B100mYHの萩原選手(豊橋南高)は中学生で入賞した昨年さらに成長し、県高校新記録で2年連続入賞を果たしました。内藤選手(ミズノ)の後継者として期待される飯田選手(チームミズノ)も自己記録で2位になり、キャプテンとしての重責を果たしました。インターハイチャンピオンの岡田選手(名古屋高)は世界ユースメダリストに苦杯しましたが、自己記録での第2位は実力をつけた証拠になりました。

競歩ブロックはインターハイ2位の沓名選手(豊川工高)が優勝を狙ったのですが、悔しい2位でした。成年女子選手10000mwに出場した占部選手(三菱自動車岡崎)はロンドンオリンピック参加標準Bを突破している選手として期待していました。占部選手は京都出身で高校時代インターハイ2位の実績を持ちながら国体代表に選ばれなかったことで今回が初出場でした。愛知のユニフォームで選考してくれなかった京都を見返したい強い意志のもとスタートしたのですが、その直後途中棄権を考えるほどの腹痛に見舞われ激痛に堪えての入賞でした。今後愛知競歩チームのリーダーとしての活躍が期待されます。

昨年好結果を残した跳躍ブロックの獲得得点はほぼ予定通りでしたが、自己記録更新者がゼロであったことが反省材料です。今年で最後となる教員枠で出場した木村先生(春日井中部中教)は初のメジャー大会出場の結果を残すことができなかったものの、来年は日本選手権の出場権を獲得していることから、再び選手としてチーム愛知に帰って来ることを願っています。さらにこれらの経験を今後の選手指導に生かしてもらえればと考えます。

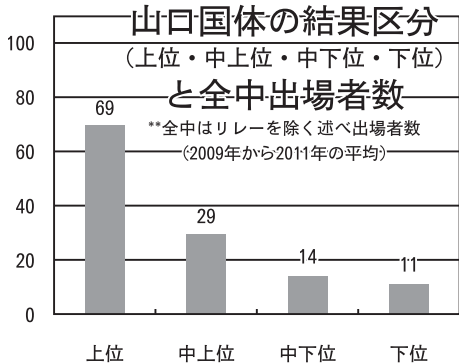
中長距離ブロックは成年選手、少年B選手なしで臨み、全員入賞を果たしました。少年B時代に出場した小山選手(豊川工高)、竹内選手(中京大中京高)はその経験が生かされたものと評価できます。今回男女少年B選手が選考できなかったことは大きな課題です。

リレーを中心に展開する短距離ブロックはジュニアオリンピック県選抜チームからの一貫体制が成果を挙げ、近年他県からも注目されています。今年初めて国体合宿に県ジュニアリレーチームも参加しました。中学生にとって目標となる国体リレーチームとの練習は大きな刺激になりました。今年の国体リレーで男女揃っての決勝進出を果たした県は千葉だけでした。その千葉は昨年総合成績で圧勝しながら、今年は最終日まで順位を落としていましたが、男女リレー入賞と少年男子B3000m優勝で一気に本県を抜き3位まで浮上しました。総合第2位の静岡は女子がバトンミスで予選敗退しましたが、男子がアンカー飯塚選手の活躍で優勝しました。女子の失敗がなければ総合優勝の可能性がありました。高橋、土井、石田ら11秒台3選手を擁する埼玉は予選で圧倒的な力を見せたものの準決勝でバトンミスを犯し敗退。これにより最終日の埼玉の総合順位上昇はなくなりました。リレーの結果は上位争いをする県にとって最重要種目であることが証明されました。

男子は5位入賞で最低限の目標は達成したものの、県選抜チームとしての課題を残しました。女子はエース不在の中でどこまで力を出せるかが課題でしたが、結果は評価できるものではありませんでした。優勝した北海道はアンカーの福島選手が他の選手との力の差を見せつけた走

りでスタンドを沸かせました。エースを擁する愛知もこの展開が可能だと思われます。合宿ではリレーメンバーと共にアップを行ない、いつでもリレーを走る気構えを持って出場した中野選手(愛教大)は日本代表の肩書を持っての国体出場でした。昨年は初の国体で入賞し、メジャーデビューを果たしてユニバーシアード日本代表、インカレ優勝のタイトルを持ち、400mの有力候補として注目されていました。世界選手権代表選手が予選落ちする中、決勝では46秒台の安定した走りで見事優勝しました。来年のロンドンオリンピック代表を是非狙ってもらいたいものです。

国体の結果を分析して、反省を基に強化の方針を検討する必要があります。今回各県の全日中出場数に着目して山口国体の成績と関係を調査した結果が以下です。



山口国体の結果を上位、中上位、中下位、下位と10県ごとに分け、全日中出場者数の平均を算出しました。上位県

ほど出場者が多い傾向にあり、例外の県は見当たりませんでした。従って国体強化=中学生の強化です。2年後の愛知全日中開催に向けて選手強化対策が急務であります。強化策とは中学生アスリートの普及、強化に他ならないことであることを今後の指針とします。

大会期間中激励に駆けつけてくださった愛知陸協の皆様、支援コーチの先生方、深夜まで選手ケアに携わってくださったトレーナーの皆さん、大会直前交代をお願いした関係チームの監督さん、各選手所属のコーチの皆様には厚くお礼申し上げます。(北村 肇)

記録委員会

今年は8月の東海中学、日韓中ジュニア、東海選手権と例年がない主要競技会のせいか、長いようで短かったトラック&フィールドシーズンも11月中旬に全て終了しました。

並行して10月から中学校各支部の駅伝大会をスタートとして、ロードのシーズンに入っています。公認記録申請も各支部記録委員長はじめ各競技会記録担当者のご尽力、ご協力により正確な報告をいただき全て申請を終了しました。

記録委員会では、8月には1回目の記録のチェックを終え、12月から1月上旬にかけて再度チェックしランキング作成の準備に入ります。日本陸連監修の100傑用資料、陸上競技専門誌等への記録の報告。その後、愛知陸協2011年分10傑表の作成と、新記録等の確認、再度のチェックを済ませ印刷に入ります。発行は3月上旬の予定です。今年から中学校の記録整理に記録委員会副委員長、名倉喜三郎氏の協力が得られることとなりました。高校の記録整理における尾張支部、野口一昭支部記録委員長との2重のチェック体制と同様により正確な記録集が発行できます。

2011年11月現在の新記録等 県新記録:5種目9個、高校新:8種目15個、高校タイ記録:1種目1個、中学新記録:4種目6個。

◎広報第23号以降、確認した県記録等 県新記録

- 男子 200m 20.87 屋貝 博文(中京大)
第80回日本学生対校選手権大会(熊本)9月11日
- 400m 45.97 中野 弘幸(愛知教育大)
第8回サマーゲーム(代々木)7月24日

高校新記録

- 男子 ハンマー投 64.17 墨 訓熙(起工)
第66回国民体育大会(山口)10月8日
- ハンマー投 66.38 墨 訓熙(起工)
第27回日本ジュニア選手権大会(瑞穂)10月23日
- ハンマー投 63.75 墨 訓熙(起工)
平成23年度第3回尾張支部記録会(一宮)11月12日
- 女子 1000m 3.10.37 柴田 夏希(一宮北)
平成23年度第3回尾張支部記録会(一宮)11月12日
- 100mYH 13.91 萩原 加奈子(豊橋南)
第66回国民体育大会(山口)10月9日

中学新記録

- 女子 4×100mR 47.47 愛知選抜
(掛川 栞・中野真琴・河合詩織・伊藤南侑)
日本ジュニアユース選手権招待(瑞穂)10月22日

小学生最高

- 女子 6年 80mH 12.91 原 智聖(JAC 大府)
平成23年度知多愛日小中学生秋季競技会(半田)10月9日
- 6年 走幅跳 4.88 吉村 月乃(東浦AC)
第28回愛知県小学生リレー競走大会(瑞穂)6月26日
- 6年 走幅跳 4.98 吉村 月乃(東浦AC)
第25回愛知県小学生選手権大会(混成)(瑞穂)11月3日
- 2種競技B 1908 吉村 月乃(東浦AC)
(4m98(-0.6)-13秒57(-0.4))
第25回愛知県小学生選手権大会(瑞穂)11月3日
(岡田 武彦)

女性委員会

女性委員会 会議報告

- <開催日時>平成23年11月26日(土)15:00~17:00
- <開催場所>陸協事務所
- <出席者数>8名
- <会議内容>

1 報告・連絡事項

■山口国体の報告

女子選手の活躍が目立たなかった。原因としては、選手内訳の男女比(男子19名・女子10名)にも見られるように女子の選考数が少ない。特に中学・高校時代に活躍した女子選手が、成年選手として活躍し選考される事が難しい。また選考された選手も、うまく体調管理ができておらず良い競技結果に結びついていない。

この反省を踏まえて、「今後はあらゆる大会を観戦し、選手データを収集する」「日頃から選手とコミュニケーションを取る」「選手自身が自分の体と向き合い、しっかりとコンディション作りができる」ことを念頭において女子選手をサポートしていきたい。(佐藤悦子)

■ JAAF U-12 クリニック 11月20日(日)の報告

対象が小学生であったので、ゲームや遊びの中にトレーニングが含まれるとても良いプログラムであった。参加した選手・指導者はもちろん、スタンドから見学をしていた保護者達も非常に興味深く楽しんで参加してもらえた。

普及事業として、とても大きな成果があったと思うし、また愛知陸協としても今後このような機会は、必要であると感じた。

個人としては、本事業の担当スタッフとして準備や運営に携わった。スタッフ間・陸連・瑞穂競技場・各チーム等との連絡や打ち合わせ等大変であったが、とても良い経験になった。〔谷寄好美〕

■ 愛知陸協 OB・OG 会の会員募集について

昨年度まで OB 会は、60 歳以上の会員で構成をされていたが、女性会員が少なかった。平成 23 年度からは名前を OB・OG 会と改め、女性については 50 歳以上で入会可能と規約を改正した。これにより多くの女性に入会してもらえるようになった。入会を呼びかけて会員を増やしたい。〔OB・OG 会世話人担当：石田美知枝〕

■ 陸連女性委員会定時会議出席報告

11月13日(日)12時より16時まで陸連会議室にて会議があり、出席をした。内容は、2月に開催をする全国女性委員会会議内容についてであった。〔脇田千鶴〕

■ 都道府県対抗女子駅伝応援バスツアーについて

昨年度初めて日帰りバスツアーを開催し、選手団はじめ参加者の皆さんに大変好評をいただいた。本年度は、日帰り・1泊の2コースを用意し参加者を募集中。

募集要項は、ホームページに掲載済みである。大会は1月15日(日)に行なわれる。

■ 名古屋ウィメンズマラソンについて

3月の渋谷表参道ウィメンズラン・10月大阪マラソン・11月神戸マラソンの視察報告と名古屋ウィメンズマラソンの準備状況の報告。

愛知陸協の役割について、エリートの部は名古屋国際女子マラソンと同様に資格審査・第1点呼・スペシャルドリンク受付等が予定されている。スタートとフィニッシュがナゴヤドームに変わることによって問題になってくることに対応できるようにすることが大切である。時間が長時間になり、多くの選手が参加し、多くのボランティアが関わってくる。的確なボランティア指導が重要である。

今後は大会のホームページ等を見て情報収集してほしい。詳細が入り次第情報は流していきたい。

2 協議事項

■ 委員会メンバーの補充について

メンバー2名の活動休止に伴い、来年度2名の補充を行なう。

■ 第9回愛知レディース陸上競技大会について

近年参加者が増大している。各種目の参加数にバラツキが見られ、特に1500mの参加者が多い。もう一度標準記録を見直す必要がある。強化委員会の意向を伺い検討していく。

素敵に美ジョガー宣言

名古屋市教育スポーツ協会主催講座



女性向けランニングクリニック

素敵に美ジョガー宣言と題した女性ランナー対象の講座が開かれ、愛知陸協稲垣裕副理事長が講師を務めました。

近年のランニングブームや名古屋ウィメンズマラソンに備えて、トレーニングの仕方・アフターケアについて・紫外線防止策等を学びたい20歳代から60歳代の女性約30名が受講されました。稲垣副理事長が担当したランニングクリニックの部も大変好評でした。講座を企画・担当された名古屋市教育スポーツ協会の方は、「来年3月の名古屋ウィメンズマラソンに向けて、こうした機会を増やし盛り上げていきたい」と話してみえました。

(脇田 千鶴)

関係団体報告

小学生友の会

第25回愛知県小学生陸上競技選手権大会が11月3日(木)に瑞穂公園陸上競技場で行なわれ、次の大会新記録が生まれました。

6年女子80mH 13.12 原 智聖 JAC 大府

6年女子4×100mR 52.55 安城 JAC

(鳥居 夏帆・川端 真奈・森 みくる・野村 梨紗)

2種競技B 1908 吉村 月乃 東浦 AC

6年女子100m 13.07 川端 真奈 安城 JAC

また、日本陸連主催のJAAFアスリート発掘育成プロジェクトU-12陸上競技教室が11月20日(日)に瑞穂公園陸上競技場で行なわれました。6月に行なわれた愛知県小学生リレー競走大会の上位入賞者と小学生友の会登録チームから2名以内の参加者を募ったところ、県内から92名の参加があり、日本陸連のコーチ5名、本県の強化スタッフ、トレーナー、友の会登録チームの指導者24人体制で指導に当たりました。午前は「陸上競技の基本・陸上競技につながる運動遊び」として基本的な動きを行なった後、コントロールテストを行ないました。午後は短距離走と跳躍の練習をローテーションで行ないました。

コントロールテストの集計を行なった日本陸連のコーチより、「愛知はレベルの高い選手が多い、特に全国交流大会に参加している選手が高得点を取れている」とおっしゃっていただくことができました。



短距離の指導を受ける選手たち

山口国体参戦記



勢ぞろいした選手団

成年男子 400m 優勝

愛知教育大学大学院 中野 弘幸

昨年の千葉国体に続き、今年山口国体も、成年男子 400m に出場させていただきました。昨年は 6 位でしたが、今年は優勝することができました。高校時代の恩師である森谷晴彦先生に少しでも恩返しをすることができたのではないかとひと安心しています。

学生やシニアの試合では単身で乗り込むことが多く、国体のように、先生方やトレーナーさん、仲間をサポートを受けられない状況が何度かありました。いつもとは違ったプレッシャーのかかった国体で持てる力を発揮し、優勝することができたのは、皆様の精神面や身体面の両面での助けがあったからに他なりません。本当にありがとうございました。

ロンドン五輪に向けて、今後もトレーニングに励みます。



少年男子 A ハンマー投 優勝

起工業高校 3年 墨 訓熙



今回の国体は、2 回目の出場ということもあり、次の二つの目標をもって挑みました。一つ目は、昨年の国体では、期待に応えることができなかったため、少しでも愛知のために貢献すること。二つ目は、インターハイでの雪辱を果たすことでした。インターハイで優勝できなかった悔しさをバネにトレーニングを積んできました。国体では、最終 6 投目に 64m17 の自己ベスト記録で逆転優勝できたことは、本当にうれしかったです。そして自分にとって良い経験になりました。改めて、最後まで諦めない大切さと、多くの方々に支えていただきながら競技できていることを実感しました。

これからも感謝の気持ちを忘れず、この結果におごらず、今後も練習に励みたいと思います。ありがとうございました。

少年男子 B 110mJH 優勝

名古屋高校 1年 古元 翼

国体出場は中学生の頃からずっと目標にしてきました。自分の走りが少しでも愛知に貢献できればという思いで試合に挑みました。レースでは、走るごとに自己ベストを出すことができ、優勝できたことはもちろん、「ありがとう」と先生から言葉をかけてもらったことが何より嬉しかったです。

来年のインターハイや国体に向けて気持ちを切り替え、常に周りの人への感謝と謙虚な気持ちを忘れず、陸上を楽しんでいきたいと思っています。



成年男子 110mH 第2位

チームミズノ 飯田 将之



今回の敵は、対戦相手ではなくプレッシャーという見えない相手でした。愛知県選手団は初日から好発進して、少年ハードルブロックも優勝、2 位、3 位と好調でした。そんな敵が「上位入賞はしないとまずいよ」と囁いてきました。しかし、敵を味方に変えて？自己ベストで 2 位という結果になりました。正直、うれしいという感情はなく、ホッとした事と悔しい感情が残りました。やはり一番にならないと面白くないと感じました。

来年は、ロンドン五輪があるので愛知代表から日本代表になります。

少年男子共通 800m 第3位

岡崎城西高校 3年 新橋 基功

国体への出場は初めてでしたが、コーチの方々やチームの皆さんから声をかけていただき、試合に対してリラックスしながらも集中して臨むことができました。その結果、自己記録を出しての第 3 位に入賞することができました。

今回の国体で学んだことは非常に多く、今後の競技生活にとってもためになることばかりでした。国体で学んだことを生かし、更なる高みへと進めるよう誠心誠意練習に励み、精進していきたいと思っています。

愛知県選手団の皆さん本当にありがとうございました。



第66回山口国体愛知県選手団競技成績一覧表

男女総合(天皇杯) 4位 102.33点 女子総合(皇后杯) 22位 29点

種別	種目	氏名	所属	記録	結果	得点	備考
成年男子	100m	服部 辰也	中京大	10.67	準決勝 6位		
	400m	中野 弘幸	愛知教育大	46.38	1位	8	
	110mH	飯田 将之	チームミズノ	13.73	2位	7	自己新
	400mH	山内 博貴	中京大	51.99	予選 5位		
	棒高跳	山本 聖途	中京大	5.30	4位	5	
	走幅跳	木村 友紀	春日井中部中 教員	7.25	17位	10	
成年女子	100m	前川 奈央	都留文科大	12.07	準決勝 4位		
	400m	齊藤 結	中京大	57.51	予選 7位		
	10000mW	占部 磨美	三菱自動車岡崎	48.49.55	7位	2	
少年男子 A	100m	西垣 佳哉	中京大中京高	10.87	準決勝 4位		
	5000m	小山 裕太	豊川工高	14.18.49	7位	2	
	400m	岡田 壮平	名古屋高	48.46	準決勝 6位		
	400mH	岡田 壮平	名古屋高	51.08	2位	7	自己新
	走幅跳	鈴木 舜也	成章高	7.09	9位		
	円盤投	越 寛将	至学館高	46.97	2位	7	
	ハンマー投	墨 訓熙	起工高	64.17	1位	8	県高校新
少年男子共通	800m	新橋 基功	岡崎城西高	1.51.89	3位	6	自己新
	5000mW	杓名 貴輝	豊川工高	21.38.10	2位	7	
	走高跳	糟谷 隆明	中京大中京高	2.03	8位	0.33	8位タイ3人
	棒高跳	榎 将太	岡崎城西高	記録なし			
少年男子 B	100m	掛川 真	名古屋高	10.87	5位	4	自己新
	110mJH	古元 翼	名古屋高	14.13	1位	8	大会タイ・自己新
少年女子 A	100m	山田 恵里	中京大中京高	12.35	準決勝 3位		
	400m	竹内麻里子	中京大中京高	57.38	予選 5位	4	
	3000m	清田 真央	中京大中京高	9.13.43	8位	1	自己新
	走幅跳	布施 和花	至学館高	5.50	11位		
少年女子共通	800m	竹内麻里子	中京大中京高	2.10.48	5位		
	やり投	高塚 裕子	名城大附高	46.63	6位	3	
少年女子 B	100mYH	萩原加奈子	豊橋南高	13.91	3位	6	県新・自己新
	走幅跳	石原 薫子	岡崎城西高	5.53	6位	3	
成少年男子	4×100mR	掛川 真 屋貝 博文 服部 辰也 西垣 佳哉	名古屋高 中京大 中京大 中京大中京高	40.48	5位	4	
成少年女子	4×100mR	前川 奈央 山田 恵里 齊藤 結 萩原加奈子	都留文科大 中京大中京高 中京大 豊橋南高	47.19	準決勝 7位		

少年男子 A 円盤投 第2位

至学館高校3年 越 寛将

私は、国体に出場するにあたり二つの大きな目標をたてました。一つはインターハイで決勝に進みながら記録無しで終わった雪辱を晴らす事。もう一つは、お世話になった先生やコーチ、支えてくれた家族や友人などに入賞という形でお礼をする事です。

この3年間で先生やコーチの偉大さを強く感じました。選手としてさらに上を目指すためにも感謝の念を忘れず、これからも愛知の名前を背負える選手を目指したいと思います。



少年女子 B 100mYH 第3位

豊橋南高校1年 萩原 加奈子

国体は今回で2回目の出場でした。今年は思うようにタイムを出せず、思い悩んだ年でしたが、国体をきっかけに変わることができました。不安やプレッシャーでいっぱいでしたが、コーチの方々や選手の皆さんに声をかけていただいたおかげで、リラックスして競技に臨むことができ、今年一番の走りをする事ができました。

リレーメンバーとしても走らせていただき、たくさんの経験をし、学ぶこともいろいろありました。この経験を生かし、来年も頑張っていきたいと思います。

また、指導者・保護者向けに午前中は発育発達、午後は栄養についての講義も行なっていただきました。どちらも50名を超える方に参加いただき、日本陸連の最新の指導法を学んでいただくことができました。

参加した選手の意欲的な姿勢と指導者・保護者の方のご協力により無事陸上教室を終えることができました。

(石田 伸)

中小体連

2013 愛知全中に向けて

10月28日(金)～30日(日)に横浜の日産スタジアムで第42回ジュニアオリンピック陸上競技大会が行なわれました。全中で100m5位、200m2位だった村瀬翔太くん(城山・3年)がA200mにおいて見事優勝を飾りました。圧倒的な強さでの勝利は圧巻でした。A走高跳の水谷来くん(朝日丘・3年)は、全中での決勝では惜しくも記録なしに終わりましたが、今回見事8位入賞を果たすことができました。A走高跳で5位に入賞した松井紗希さん(鶴城・3年)は、全中でも4位入賞して安定した力を発揮しました。また、B砲丸投の佐藤真子さん(武豊・2年)が7位、ABC共通円盤投の能澤照実さん(守山西・3年)が7位、ABC共通ジャベリックスローの森風紗さん(牧の池・3年)が4位にそれぞれ入賞し、国体チームの投擲陣の活躍に続くことができました。伊藤南侑さん(とよたAC・3年)がA200mで7位、中野真琴さん(豊橋東部・2年)もB100mで4位と、昨年に引き続きリレーチームの柱として活躍した二人が共に個人でも入賞し、存在感をアピールしました。

また、2013年の愛知全中に向けて、Cクラスの1年生が活躍してくれました。県選抜リレーチームの第1走者を務めた和田瑞輝くん(田原・1年)はC100mで3位。リレーでも素晴らしい走りを見せてくれました。C1500mでは、内山将志くん(五並・1年)が粘り強い走りで8位入賞を果たしました。掛川菜さん(栄・1年)は、C100mで自己新記録となる12.43で見事優勝。スタート1歩目から他を引き離す圧巻のレースでした。リレーの第1走者としても大活躍してくれました。C走幅跳では、明星光さん(とよたAC・1年)が5m17という素晴らしい跳躍を見せ4位入賞を果たしました。愛知全中で3年生を迎える現1年生の活躍は、今後のチーム愛知の活躍を予感させるものでした。



【写真上】A200m優勝 村瀬翔太くん(城山・3年)

【写真左】C100m優勝 掛川 菜さん(栄・1年)

県選抜チームで臨んだ女子4×100mRでは、47.67で準優勝。一昨年が2位、昨年が1位という実績で臨んだ本大会ですが、最後の最後で静岡チームに追い込まれ、惜しくも2位でした。しかし、予選から安定した力を発揮し、全国に「リレーが強い愛知」を強くアピールすることができました。



女子4×100mR 2位

1走: 掛川 菜さん(栄・1年)
上段左から二人目
2走: 中野真琴さん(豊橋東部・2年) 下段一番左
3走: 河合詩菜さん(安祥・3年)
下段左から二人目
4走: 伊藤南侑さん(とよたAC・3年) 上段一番左

今回、愛知県ベンチを訪れ、控え場所として利用したり、情報交換をしたりする選手・指導者の方の数が格段に増えました。愛知全中に向けて、「チーム愛知」としてのまとまりを感じる事ができました。今後も、全中、ジュニアオリンピックでは、こうした形で中学校現場がまとまっていけたらと思いますので、ご協力よろしくお願い致します。

11月19日(土)に新城総合公園陸上競技場で第60回愛知県中学校駅伝大会が行なわれました。本年で2回目となる新城での大会となりましたが、東三河地区関係者のご尽力により、スムーズに大会を進めることができました。まれにみる豪雨の中での大会となってしまう、選手達はコンディショニングに苦労していました。男子の優勝は豊橋市立石巻中学校、女子の優勝は稲沢市立祖父江中学校で、両校ともに見事連覇を決めました。石巻中学校は通算7回目の優勝、祖父江中学校は2回目の優勝です。優勝の両校は、12月18日(日)に山口県で行なわれました第19回全国中学校駅伝大会に愛知の代表として参加をしました。

最後に、ジュニアオリンピックの県選抜リレーチームの強化に関してご支援をいただきました愛知陸協、またご尽力いただきました強化委員長の北村肇先生、男子監督の丹羽智行先生、女子監督の佐橋弘晃先生、各所属の監督の先生方、保護者の皆様方、また、ジュニア・ユース大会、知多愛日秋季大会にオープン参加させていただくよう配慮してくださいました関係各位の皆様方、また、県駅伝大会の開催を中心となって進めていただいた東三河中小体連の榎谷幸郎先生、中小体連新城支所の神谷勝則先生、新城市内の体育主任の先生方をはじめ中体連の活動にご協力いただきました多くの皆様方に、この紙面を借りて厚くお礼を申し上げます。(久米 裕朗)

高体連

◎ 去る、10月29・30日の2日間、岐阜市の長良川メモリアルセンター陸上競技場において東海高校新人大会が行なわれました。本年行なわれる岐阜国体のために新装され、本競技場は9レーンに、サブグラウンドは400mトラックに生まれ変わった競技場で、多くの愛知県選手が活躍しました。県内選手の成績は別掲のとおりです。この大会は、来年の東海高校総体の目安となる大会で、場所も同じ競技場で行なわれます。この中から、一人でも多くの選手が、本年7月29日から新潟県のビッグスワンと呼ばれる素晴らしい競技場で行なわれる、全国高校総体に出場できるよう期待しています。また、惜しくも入賞できなかった選手も、今年の春に向けて冬季練習を頑張り、全国高校総体を目ざしていただきたいと思ひます。

◎ 11月6日には、知多運動公園陸上競技場を発着点として、県高校駅伝競走大会が開催されました。今回はコー

途中の企業より強い要望を受けまして、男子第5中継所を約50m前方に移動させなければならなくなりました。そのため男子についてはスタート地点から各中継所およびゴール地点まですべて50m移動させてのレースとなりました。若干の混乱も予想されましたが、選手・監督・競技役員および知多警察署等すべての関係者の方々の協力を得て無事大会が終了しました。大会結果は別掲のとおりです。男子優勝の豊川工業高校は大会記録にわずか6秒届かないながらも見事に14年連続優勝を達成しました。また、女子優勝の豊川高校は全員が区間賞という圧勝で見事5連覇を成し遂げました。この両校は、12月25日に京都市で行なわれる全国高校駅伝競走大会に、愛知県代表として出場します。男子の豊川工業高校は十分入賞を狙える記録です。また、女子の豊川高校は2年ぶりの優勝を十分狙えるチームです。両チームのご活躍を祈ります。

知多市で会場をお借りして県高校駅伝競走大会を開催するようになって、今年で32年になりました。この間毎年お世話になっております知多市・知多市教育委員会、知多警察署、知多三四会（コース沿線の各企業の組合）及び愛知陸協の稲垣裕様、江藤照雄様にはこの紙面をお借りしまして厚く御礼申し上げます。（大島 修）

高体連定通部

前日まで降り続いた雨が上がり、雲ひとつない秋晴れとなった10月16日（日）知多運動公園陸上競技場にて、平成23年度愛知県高等学校定時制通信制秋季体育大会が開催された。開会式の中で奥村美樹（科技高刈谷）の力強い選手宣誓と、今回は全国大会男女総合3位と活躍した入賞者の紹介が行なわれた。

競技会は男子3000mSCで富山裕司（科技高刈谷）が自己記録を更新しての大会新記録で優勝し、来年度特に期待できる選手である。この大会には高校生活最後となる選手（4年生）も出場し、頑張りを見せた。4年連続全国大会に出場し、入賞も果たした谷川徹（豊橋・夜）は3000mSCで、大会記録の富山に続いての2位となった。また女子800mは春名恵里（豊橋・昼）がゴール前でトップに立ち優勝した。そのほかにも4年生が下級生を退ける活躍を見せたが、それが来年度の主役となる選手達にはいい薬になったと思う。

2種目優勝は、山中満（豊橋・昼）が100m・200m、日高雅康（科技高刈谷）400m・400mH、林田光平（科技高刈谷）が800m・1500m、加藤宏明（岡崎工業）が砲丸投・円盤投、女子は奥村美樹（科技高刈谷）が200m・400m、平田エリカが100mH・走高跳で果たした。

男子総合優勝は科技高刈谷が11年連続、女子は豊橋・昼



全国大会での集合写真



宣誓する奥村選手

が4年連続と連覇を伸ばした。

全体に記録は低めであったが、選手それぞれ来年度への課題が見つかった大会になったと思う。

（松橋 政人）

学連

東海学生陸上競技連盟からの報告

東海学生陸上競技連盟は10月15日（土）・16日（日）の東海学生秋季大会でシーズンを終了し、駅伝・ロード競技を残すのみとなったが、今シーズンは愛知県出身の東海学連所属選手が国内・国際大会で活躍したシーズンであった。

まず6月に開催された日本選手権で男子においては中野弘幸選手（愛知教育大）が400mで4位入賞、中村明彦選手（中京大）が十種競技5位、400mHにおいても5位入賞を果たしている。女子では市川華菜選手（中京大）が100m・200m2位、今井沙緒里選手（至学館大学）が200m4位の活躍が目立った。

日本選手権の1週間後に行なわれた日本学生個人選手権では走高跳で舟瀬勇太選手（中京大）、棒高跳で山本聖途選手（中京大）、女子100m・200mで今井沙緒里選手（至学館大）が優勝という活躍を見せている。



4×100mR2位の4選手

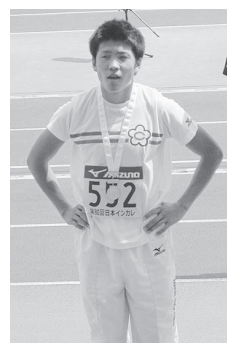
今年アジア選手権、ユニバーシアード、世界選手権など国際大会が多く開催されて、東海学連の選手たちはここでも素晴らしい活躍を見せた。まず中村選手、市川選手、今井選手が7月に神戸で行なわれた第19回アジア選手権に日本代表選手として出場し、中村選手は十種競技銀メダル獲得、今井選手は4×100mRで金メダル、200mで銅メダル獲得という好成績を残している。さらに、市川選手、今井選手は8月下旬から9月にかけて韓国テグで開催された第13回世界陸上競技選手権の日本代表選手に選出された。また、8月に中国で開催されたユニバーシアードには中野弘幸選手が出場し、4×400mRで見事に銀メダルを獲得している。

国際大会における活躍と共に日本インカレで活躍する選手を多数育成することも東海学連の重要な目標であるが、今年の日本インカレでは東海学連の選手が大活躍した。特に愛知県出身の選手の活躍が目覚ましく、男子では400mで中野弘幸選手が優勝、200mで屋貝博文選手（中京大）、十種競技で中村明彦選手が2位、女子では今井沙緒里選手が100mで、鈴木亜由子選手（名古屋200m2位の屋貝博文選手）が優勝している。男子4×100mRで2位入賞した中京大学のリレーメンバーは3人（屋貝博文、服部辰也、田口博崇）が愛知県出身選手であった。

今年のような東海学連における地元愛知県出身の選手の活躍を継承させていくために、人材豊富な地元愛知県の高



十種2位の中村明彦選手



200m2位の屋貝博文選手

校生の強化を進めていく事が重要な課題となる。

(本田 陽)

マスターズ陸上

心豊かな長寿社会への貢献役

平成23年度の愛知マスターズ連盟の行事は、ほとんど終わり、主たる行事としての愛知マスターズ陸上競技選手権と年4回の記録会は、概ね順調に終了しました。会長以下理事も大幅に代わった中、運営に一抹の不安もありましたが期待通りの活躍が得られ、杞憂に終わり安堵しています。

文部科学省が主催して行なわれる全国スポレク祭栃木大会のマスターズ陸上競技の部が11月5日から11月8日まで宇都宮市で開かれました。この大会は第24回の今大会をもって終了となることから、各都道府県からの代表選手

も例年になく力の限りを尽くして競技に臨んでいたとの報告をいただきました。

愛知県版のスポレク祭陸上競技は、例年一宮市で開催されていますが、マスターズ陸上競技の全国大会が一つ減ることは、生涯スポーツの伸展に水を差すことになると考えられますので、関係する一人として淋しい限りです。

生涯スポーツの伸展は、増大する高齢者の医療費を少しでも抑制するために重要な施策の一つです。今現在の目の経費しか見ていないカットは、その場凌ぎの浅はかな発想で真に残念なことと考えます。形を簡素化して是非再開を願いたいと思います。



県スポレク祭 1500m

ホープリング⑱

丹羽愛利彩選手 (愛工大名電高校 1年)



ラダーによる動きづくり

丹羽愛利彩は、愛工大名電高校科学技術科の1年生です。4月中頃に顧問の私の所に陸上競技部への入部を希望してきました。最初の印象としましては、声も小さく、話し方もボソボソとしたもので、さらには風貌もスポーツ選手特有の澁さもなく、とてもスポーツ選手としてやってはいけないと思い、マネージャーを勧めました。しかし、本人の強い希望もあり、選手として入部を認め練習にも参加させることにしました。本人に聞いたところ、私の最初の印象通り、小学校・中学校とも陸上のみならず、スポーツにも全く無縁であり、中学時にはジャズ部に所属していたとのことでした。従って、練習も当然ながら当初はついていけない状態が続いていたのですが、時間が経ち練習にも慣れてくると、周囲の皆が目を見はるような走りをするようになりました。そして何よりも私だけでなく皆が驚いたのが、その筋肉のつきかたにありました。私も長い間陸上競技の指導者として様々な選手を見てきましたが、女子選手であるような筋肉、特に太ももからふくらはぎにかけての筋肉は、今まで何もスポーツをやっていたとは到底思えないものでした。これは、生まれつきの彼女の素質なのだと思うしかありません。

本年度の6月に行なわれた愛知県選手権の名古屋支部予選会が、彼女の陸上競技における最初の試合となりました。結果は100mを走り12秒98という、人生初レースとは思えない好記録を出し、今後の可能性を十分に感じさせるものでした。その後も、試合を経験するたびに成長を続け、7月に行なわれた名北学年別大会では、100m・200m両方で名電記録を更新しました。

夏の2回にわたる合宿もしっかり走りこみができ、私から見ても明らかに力がついているのが分かりましたので、9月から始まる新人戦はかなりの期待を持って、試合を楽しみにしておりました。県大会出場をかけた名北予選では、100m・200mの2種目に出場しましたが、結果は両種目とも優勝というもので、この走りを見て、県大会での活躍も十分期待できるレベルの選手になったと思いました。とはいえ、県内には強豪選手がたくさんいますし、彼女自身陸上競技を始めて実質数ヶ月の選手です。当然緊張もありますし、過大な期待をかけても逆にプレッシャーを感じて本来の走りができなくなるかもしれませんでしたので、特に指示はせずに、「楽しく走って来い」と送り出しました。結果は、周囲の想像を超えて、100mが2位、200mでは優勝という、素晴らしい結果を残し、東海新人大会への出場権を獲得しました。ただ、私を含め本校部員もこの快挙を驚いていたのですが、もっと周囲を驚かせたことが、本人が100mで勝てなかったことを真剣に悔しがっていた姿でした。走る才能だけでなく、強くなるのに最も必要な負けん気というものを強く持っていることにこの県大会で気づかされました。

東海新人大会でも十分に力を発揮することができ、100mは3位、200mでは2位という好結果を収めることができました。しかし、東海のトップレベルの選手との力の差は明らかで、今年の冬季練習でしっかり走り込む必要性を本人も自覚しておりました。技術的にはまだまだスタートをはじめ修正しなければならないことがたくさんあり、冬季は彼女にとって非常に大切になってきます。練習に取り組む姿勢には本当に真摯なものがあり、性格も非常に素直な生徒で、そして何よりも強くなりたいという貪欲な姿勢がある選手ですので、あまり詰め込みすぎず、今まで通り楽しく練習をさせていきたいと考えています。そして来年のインターハイ予選では、今以上の走りをし、全国高校総体に出場し、最高の舞台で活躍できるような選手になるように、またその可能性が十分ある選手ですので、甘やかせることなく、また大切に育てていきたいと考えています。



快調走

(船本 広之)

少し横道に反れましたが、この大会における愛知県選手の活躍を報告します。

個人種目15、リレー種目2で1位を獲得しています。個人の男子では知多市の松原憲治がM40の走幅跳と三段跳、一宮市の渡辺実がM45の100mと200m、女子では名古屋市の浅井紀子がW35の100mと走幅跳、豊川市の碓井由紀子がW50の100mと200mでそれぞれ2種目を制覇しています。リレー種目では男女混合8×100mリレー、女子4×100mリレーで1位となっています。特に、女子4×100mリレーでは、愛知マスターズが誇る碓井由紀子、金子葉子、谷寄好美、浅井紀子が走り、54秒12という素晴らしいタイムで圧勝の1位となっています。

(佐野 昭二)

愛知陸協 OB、OG 会

7月16日の総会には72名の多くの会員の皆さんの出席で、盛大に開催することができました。

引き続いて恒例の秋の行事は9月8日に36名の参加のもと、初秋の美濃路を訪れ、清流板取川が眺望できるお座敷でアユ料理に舌つつみ、アユで腹一杯になるほどいただきました。その後、板取川温泉で汗を流し、親睦を深めることができました。



そして11月25日に第4回世話人会を行ない、皆様のご要望にこたえて1月28日(土)・29日(日)に東三河支部の担当で新年懇親会を蒲郡荘で開催することになりました。詳細については追ってご案内いたします。

残念なことに8月18日安藤昌男様(東三河)、11月14日に西尾義光様(西三河)、11月27日には堀尾敬介様(尾張)の3名がご逝去されました。衷心より哀悼の意を表します。

又、新たに西三河の小林暎治様と本間隆勝様のお二人が入会されることになりました。新しい仲間として入会を歓迎したいと思います。

そして女性(50才以上)の入会については是非ご推せんくださいますようお願い申し上げます。

(村瀬雄一郎)

競技会報告

第32回愛知県ジュニアオリンピック競技大会
第42回ジュニアオリンピック陸上競技大会愛知選手選考会
2011年9月19日(月・祝) 名古屋市瑞穂公園陸上競技場

(◎：標準記録突破)

	種目	1位	2位	3位
男子A	100m	黒木 省悟 11.06 矢作	寺島 航汰 11.32 北陵	萩野 雅斗 11.39 東海
	200m	川端 健太 22.69 東山	水野 照太 23.29 守山	前田 通彦 23.31 豊川東部
	3000m	平野 誉之 9.02.57 石巻	服部 晟也 9.03.71 吉良	村瀬 佳樹 9.06.44 豊川南部
	110 m H (0.991m)	岩崎 聖 15.12 東海	渡邊圭一郎 15.39 富士	鈴木 康隆 15.87 甲山

	種目	1位	2位	3位
男子A	走高跳	水谷 来 1.94 ◎朝日丘	近藤 雅哉 1.94 ◎美川	中島 恭佑 1.85 西尾東部
	砲丸投 (5.000kg)	清水 和樹 13.09 味美	鈴木 慶彦 11.94 駒方	前田 浩貴 11.00 豊正
男子B	100m	新美 泰地 11.54 東浦	小川 太郎 11.57 大曾根	牧 滉己 11.84 大塚
	1500m	三輪 軌道 4.19.22 東港	鈴木 貴博 4.19.29 岡崎東海	渡邊 稜介 4.20.42 美川
	110mH (0.914m)	深谷 隼斗 15.85 有松	政岡 薫 15.93 富士松	久我 敏基 16.12 豊橋南部
	走幅跳	森 将太 5.99 岡崎北	鈴木 力斗 5.98 大口	林 晃樹 5.97 福岡
	砲丸投 (4.000kg)	大浦 優汰 11.62 六ツ美		
男子C	100m	和田 瑞輝 12.07 田原	原田 剛 12.47 大塚	森岡 哲 12.55 古知野
	1500m	内山 将志 4.28.72 五並	山下 和希 4.29.14 岡崎南	天野 智貴 4.30.87 あつみクラブ
	110mH (0.840m)	小林 慧吾 15.70 千種台		
	走幅跳	宮田 龍樹 5.47 知立南	大久保光祐 5.12 岡崎南	渡邊 優雅 5.03 大治
男子A B C 共通	砲丸投 (4.000kg)	白藤 聖陽 9.69 矢作	石山健太郎 9.65 西尾	岡崎 大生 9.23 宮田
	棒高跳	高橋 幸大 3.70 守山	山添 琢郎 3.60 豊川東部	藤田 刀夢 3.50 逢妻
	円盤投 (1.500kg)	田中 行生 29.26 守山西	音 涼斗 28.50 萩山	高田 大嗣 28.16 富士
男子B 共通	ジャベリック スロー	杉浦 大輝 57.59 乙川	則竹 拓哉 55.27 木曾川	赤坂裕二郎 54.00 TSN
	走高跳	加藤 亮汰 1.70 六ツ美	山口 優紀 1.65 駒方	白澤 克徳 1.60 有松
女子A	100m	河合 詩菜 12.79 安祥	水谷有友美 12.86 長良	村越優里奈 12.94 六ツ美北
	200m	伊藤 南侑 25.59 とよた AC	山口 綾加 26.64 豊川西部	稲垣 絢圭 26.72 北陵
	3000m	中根 千明 10.03.06 矢作	鷺見 梓沙 10.07.53 香掛	吉川 真希 10.15.14 祖父江
	100mYH (0.762m)	柳瀬 理央 15.36 守山西	内山はるな 15.58 二川	古澤 彩果 15.74 香流
	走高跳	稲垣 碧 1.55 福岡	大和田ゆうか 1.50 代田	佐藤ひかる 1.50 豊橋南部
	砲丸投 (4.000kg)	中村 彩花 10.05 豊橋陸上クラブ	牧 亜香里 8.58 振甫	吉田麻衣歌 8.54 北陵
女子B	100m	松本 扶弥 13.06 矢作北	武山さくら 13.08 岩津	杉浦 七海 13.14 東山
	1500m	伊藤 早紀 4.46.91 田原陸上クラブ	山田 海鈴 4.48.39 田原	山本 怜奈 4.48.85 六ツ美
	100mH (0.762m)	吉田 奈生 15.21 愛知淑徳	遠山 実希 15.49 香流	石黒 陽菜 15.81 大治
	走幅跳	土屋友梨奈 4.93 古知野	阿部 夏子 4.92 名古屋陸上クラブ	大山 稜華 4.83 竜神
女子C	砲丸投 (2.721kg)	佐藤 眞子 12.26 武豊	桂山 李湖 11.61 平坂	浅井 結稀 10.25 富士
	100m	掛川 栞 12.82 栄	鈴木 瑞希 13.25 扇台	野中あい 13.32 新香山
	800m	後藤 梨奈 2.21.47 末野原	長屋 美月 2.21.66 千種台	西川 優衣 2.24.19 東陽
	100mH (0.762m)	蛭川 真由 15.46 成岩	山本 梨湖 16.94 六ツ美	山田 陽菜 17.01 竜北
	走幅跳	明星 光 5.00 ◎とよた AC	渡辺 莉緒 4.58 TSM	天草 音々 4.55 亀崎
女子A B C 共通	砲丸投 (2.721kg)	星加きらら 8.49 助光	倉又 彩 8.29 知多中部	伊藤 万畝 7.95 上郷
	棒高跳	佐藤 愛 3.00 千種	佐々木 紗 2.30 千種	野々垣 光 千種 毛利 梨華 千種 山上 結花 香流 2.00
	円盤投 (1.000kg)	能澤 照実 29.76 守山西	樋口菜々日 24.87 香流	遠藤 実奈 23.53 古知野
女子A B C 共通	ジャベリック スロー	森 凧紗 50.48 牧の池	榊原 梨子 42.64 吉良	河口 佑紀 39.37 香流

名岐駅伝いまむかし⑮

第22回大会(昭和32年) — 「一部」26チーム・「二部」49チーム参加 —

一部：中央発条、二部：豊橋工 とともに初制覇を飾る

猛吹雪で開催が危ぶまれたが、心配された棄権も一部の6チームにとどまり、両部合せて75チームの草駄天が悪天候をものともせず伊吹路を駆け抜けた。

一部：レースは三連覇を狙う東洋ペア桑名と創部3年目で初制覇を目指す中央発条との争いが注目された。

中央発条(小塚、木村、竹内、安藤、杉浦、永井、伊藤、浅井)は、1区こそ首位を安城クに譲ったものの1秒遅れの2位でタスキを受け、2区走者の区間1位の好走でトップに立って、そのまま首位を堅持して4.21.33でゴールし、初優勝を遂げる(写真A)。



写真A 初優勝をよるこぶ中央発条

今大会では、東海学連の雄中京短大(現中京大)が、4、6、8区で区間1位と健闘をしたが、総合力で今一步及ばず2位となる。



写真B 初優勝をよるこぶ豊橋工

二部：愛知高校駅伝(31/11/27)と東海高校駅伝(1/8)の上位3校、中京商、豊橋工、東邦の三つどもえの戦いが予想された。

レースは、一区では中京商、2区は東邦がトップに立ったが、前回大会で2～6区までトップをキープし初優勝が期待されながら中京商に逆転された三河の雄豊橋工(山本、永井、高橋、小林、前田、辻田、船井、川合)が、3区で首位に立ち、4・7・8区の区間1位の好走もあって、追いつがる中京商に2分近い差をつけ、4.27.13で念願の初優勝を果たす(写真B)。

2位以下の結果(愛知県分)は次のようである(3位以下は愛知県勢のみ)。

一部：②中京短大 4.26.27 ⑤豊橋青 ⑥安城ク ⑦東洋レ愛知 ⑧愛知県庁 ⑩江南体協 ⑫瀬戸陸協 ⑬愛知学大 ⑭名走友 ⑮新三菱重工A ⑯第一毛織 ⑰東海銀行 ⑱西尾走友 ⑲名古屋市役所 ⑳江南体協A ㉓大建木材

※恵那伊藤鶴酒造A(岐)、渥美ク、岐阜農高ク(岐)は途中棄権

二部：②中京商 4.29.04 ③東邦 4.30.52 ⑤大同工 ⑦成章 ⑧一宮商 ⑨半田農 ⑩西尾実 ⑫新城 ⑬桜台 ⑭瀬戸 ⑮名電気 ⑯愛工 ⑰田口 ⑱旭丘春日井 ⑳昭和 ㉓瑞陵 ㉔大府 ㉕小牧 ㉗向陽 ㉘旭丘 ㉙津島商工 ㉚瀬戸窯 ㉛刈谷 ㉜起工 ㉝一宮 ㉞名城大付 ㉟刈谷商家 ㊱鳳来寺 ㊲本郷 ㊳名西 ㊴愛商 ㊵祖父江 ㊶名市工 ㊷松蔭

※関(岐)、愛知、犬山、安城農 滝実、尾北は途中棄権

〈寄稿〉 名岐駅伝の思い出

牧田 功(写真C)

三河では、戦後いち早く駅伝やマラソン大会が盛んに行なわれ、食糧難のなか、農家の先輩が陣屋に集まり、にぎりめし、さつまいもを食べ、毎夜練習に励んだことを思い出す。

昭和23年復活名岐駅伝が始まると聞き、東海地方最大の駅伝として憧れをもって日々練習に励んだ。奥三河の雄田口高(鈴木、小野田ら)や新城高(安形、林、牧田、大久保ら)、一般では豊橋青、渥美青、八楽青らが草駄天走りを競って参加した。

参加者の苦労話としては、田口一名古屋までは田舎バスに乗り、電車を乗り継いで半日もかかった。宿泊参加も大変なもので、主力選手が卒業しチーム編成がままならなくなると自然に大会参加はなくなってしまった。

当時、新城一岐阜までは国鉄で127キロ余、100キロ以上の路線乗車には学生割引証が使えるということで、学校では生徒一人一人の行先と注意事項を伝える。大会当日、朝3時起床、50分かけて自転車で駅まで来る者、5時15分の始発電車に乗車、各自で中継所に行く。下見などもなく初めての土地で不安一杯であった。時には、蒲郡高の寄宿舎に泊まって参加した。付添い者のいない中継所では、各自が荷物をまとめ走ってくる選手に荷物を渡し、タスキを受け継ぐ方式をとった。危険なことでもあり、のんびりした駅伝習慣だったかも知れない。

豊橋工が名古屋のお寺に泊まって参加したことや名古屋で知人を頼って応援団の自転車を借用して応援してくれた先生が懐かしい。

地元チームの大応援団、自転車部隊の伴走には手を焼いた。選手を抜くときなどはなかなか選手の前に出してもらえず、伴走自転車同志の罵声は懐かしい駅伝風景であった。一宮市本町通りの松島園茶舗でお世話になったことなど、多くの人々に助けられた大会であったが、長つづきしなかった。

豊橋青、新城高が2位に甘んじているなか、渥美青(昭和28年、19回大会)、豊橋工(昭和32年、22回大会)の初優勝は地元としては大いに話題になった。また、24回大会でトップで走っていた豊橋工が復路笠松を過ぎ木曾川橋でトラックにはねられ骨折の大怪我、それでも走り切って3位入賞したことは今でも関係者の話題となっている。

参考資料⑪～⑮：⑪名古屋市立鶴舞中央図書館のマイクロフィルム所収の「中日新聞」の記事・写真を引用・転載・参考にした。

⑫「愛知陸協六十周年記念誌」愛知陸上競技協会発行、1994年

(西垣 完彦)



写真C

種目	1位	2位	3位
走高跳	金城 柚花 1.53 鶴城	佐々木悠里 1.53 大府	石倉 光世 1.45 平坂

平成23年度愛知県高等学校新人体育大会陸上競技大会
平成23年9月24日(土)・25日(日) 瑞穂公園陸上競技場

男子 (GR:大会新、= GR:大会タイ)

種目	順位	氏名	学校名	記録
100m	1	長田 拓也	豊川	10.72
	2	河室 裕貴	名古屋	10.78
	3	高橋 周治	東海	10.80
200m	1	河室 裕貴	名古屋	21.57 GR
	2	宮崎 海悠	名古屋大谷	21.85
	3	長田 拓也	豊川	22.23
400m	1	名倉 義貴	岡崎北	49.16
	2	木屋川内浩二	名古屋大谷	49.70
	3	佐藤 晃浩	中京大中京	49.72
800m	1	廣出 和樹	豊丘	1.58.36
	2	柴田 達也	中京大中京	1.59.93
	3	伊藤 要	春日井	2.00.23
1500m	1	松浦 大志	愛知	4.01.13
	2	木下 雅裕	愛知	4.01.77
	3	川合 健太	中京大中京	4.02.06
5000m	1	金尾 圭祐	豊川工	14.42.07
	2	佐藤 淳	明和	14.48.29
	3	伊藤 淑記	中部大第一	14.52.22
110mH	1	山本 健太	阿久比	14.66
	2	古元 翼	名古屋	14.81
	3	角田 涼一	中京大中京	14.90
400mH	1	下里 功大	愛工大名電	54.51
	2	嶋田健太郎	菊里	55.57
	3	石原 康平	春日井	55.89
3000mSC	1	佐藤 淳	明和	9.30.63
	2	加藤 高德	中部大第一	9.34.62
	3	大西 潤	愛知	9.34.98
5000mW	1	深谷 健斗	豊川工	22.14.53
	2	山田 康太	愛知	22.51.80
	3	井口 僚太	弥富	23.03.08
4×100mR	1	古元 翼	名古屋	41.88 GR
		河室 裕貴		
		掛川 真		
	2	金森 怜也	岡崎城西	42.28
		青木 敬太		
		磯谷 凌		
	3	藤岡 鷹羽	愛工大名電	42.51
		深谷 亮介		
		片桐 悠貴		
4×400mR	1	竹元 涼	名古屋大谷	3.18.56
		橋本 知大		
		津坂 亮博		
	2	遠藤 圭市	名古屋	3.21.09
		木屋川内浩二		
		川野 直哉		
3	宮崎 海悠	中京大中京	3.21.29	
	山本 研二			
	古元 翼			
4×400mR	3	近藤 啓太	中京大中京	3.21.29
		中野 俊助		
		井添 晶文		
		佐藤 晃浩		
4×400mR	3	加藤 恭平	中京大中京	3.21.29
		角田 涼一		

種目	順位	氏名	学校名	記録
走高跳	1	藤城 昇太	三好	1.94
	2	松島 星	市工業	1.94
	3	中村 仁	名古屋大谷	1.94
棒高跳	1	鈴木 康太	岡崎城西	4.70
	2	小木曾優作	中京大中京	4.70
	3	高田 凌	岡崎城西	4.40
走幅跳	1	鈴木 舜也	成章	6.90
	2	青山 耕也	名古屋大谷	6.90
	3	山本 研二	名古屋	6.83
三段跳	1	坂本 憲哉	一宮	14.01
	2	中村 仁	名古屋大谷	13.93
	3	遠山 雄耶	名古屋大谷	13.77
砲丸投	1	田中 証三	愛知工	12.45
	2	武田 朱至	春日井南	12.37
	3	江崎 亮人	至学館	12.09
円盤投	1	小出 拓実	名古屋	41.38
	2	天野 雄太	起工	37.59
	3	佐野 真司	起工	37.26
ハンマー投	1	天野 雄太	起工	48.71
	2	杉山裕之介	名古屋	46.84
	3	佐野 真司	起工	45.93
やり投	1	鈴木 庸太	豊橋商	58.07
	2	藤垣 諒	尾北	55.89
	3	新海 哲	福祉大付	55.11

男子総合成績

部門	順位	学校名	得点
総合	1	名古屋	48
	2	名古屋大谷	39
	3	中京大中京	38
トラックの部	1	名古屋	28
	2	中京大中京	26
	3	愛知	19
フィールドの部	1	起工業	31
	2	名古屋大谷	30
	3	名古屋	26

女子

種目	順位	氏名	学校名	記録
100m	1	森 佑紀那	中京大中京	12.13 GR
	2	丹羽愛利彩	愛工大名電	12.24
	3	杉山 美貴	中京大中京	12.38
200m	1	丹羽愛利彩	愛工大名電	25.27
	2	北野 有紀	愛知淑徳	25.29
	3	森 佑紀那	中京大中京	25.36
400m	1	吉川 侑希	中京大中京	56.95
	2	檜山 楓	津島	57.64
	3	原 菜月	旭野	58.18
800m	1	横山友里乃	愛知	2.15.22
	2	大久保沙希	至学館	2.16.00
	3	服部 優亜	名城大附	2.17.94
1500m	1	西川かりん	中京大中京	4.33.30
	2	高橋 季香	中京大中京	4.33.78
	3	横山友里乃	愛知	4.35.12
3000m	1	西川かりん	中京大中京	9.34.03
	2	北本可奈子	千種	9.36.43
	3	高橋 季香	中京大中京	9.43.74
100mH	1	萩原加奈子	豊橋南	14.57
	2	齊藤 早希	岡崎城西	14.79
	3	谷 優奈	名城大附	14.80
400mH	1	吉川 侑希	中京大中京	1.04.48
	2	原 菜月	旭野	1.04.89
	3	神谷 紗穂	安城東	1.05.37

種目	順位	氏名	学校名	記録
5000mW	1	加藤みづ紀	千種	25.43.28
	2	宮地 志奈	半田	26.00.04
	3	中村 仁美	一宮西	26.26.87
4×100mR	1	早川 有香	中京大中京	47.44 = GR
		杉山 美貴		
		松井香保里		
	2	森 佑紀那	名城大附	48.76
		谷 優奈		
		足立 香澄		
3	吉田 真樹	岡崎城西	49.19	
	馬場 桃子			
	鈴木 友幾			
4×400mR	1	齊藤 早希	中京大中京	3.57.31
		孕石 梨花		
		中山 怜佳		
	2	原田万里菜	至学館	4.00.23
		吉川 侑希		
		早川 有香		
	3	森 佑紀那	愛知	4.00.60
		野村 真由		
		大久保沙希		
走高跳	1	水野 杏美	岡崎城西	1.67
	2	伊藤 麻子		
	3	川口 真由		
走幅跳	1	久保坂優子	岡崎城西	1.64
	2	大山 晴加		
	3	萩野 千春		
砲丸投	1	浅井 真子	光ヶ丘女子	5.63
	2	菅原 美里		
	3	石原 薫子		
円盤投	1	山之内里奈	名古屋南	10.45
	2	安藤かすみ		
	3	丸山 夏美		
やり投	1	安藤かすみ	至学館	32.97
	2	早川 梓		
	3	柴田 千里		
砲丸投	1	安藤かすみ	至学館	30.48
	2	早川 梓		
	3	柴田 千里		
やり投	1	安藤かすみ	至学館	28.14
	2	早川 梓		
	3	柴田 千里		
砲丸投	1	安藤かすみ	至学館	32.97
	2	早川 梓		
	3	柴田 千里		
やり投	1	安藤かすみ	至学館	28.14
	2	早川 梓		
	3	柴田 千里		
砲丸投	1	安藤かすみ	至学館	30.48
	2	早川 梓		
	3	柴田 千里		
やり投	1	安藤かすみ	至学館	28.14
	2	早川 梓		
	3	柴田 千里		
砲丸投	1	安藤かすみ	至学館	32.97
	2	早川 梓		
	3	柴田 千里		
やり投	1	安藤かすみ	至学館	28.14
	2	早川 梓		
	3	柴田 千里		

種目	順位	氏名	学校名	記録
棒高跳	1	近田 竜雅	関西学院大	5.10
	3	山本 聖途	中京大	5.10
三段跳	7	伊藤嶺一郎	中京大	14.96
ハンマー投 (6.000kg)	1	墨 訓熙	起工高	66.38 GR

女子ジュニア

種目	順位	氏名	学校名	記録
400m	5	木引悠起子	愛知教育大	55.63
800m	6	竹内麻里子	中京大中京高	2.09.96
400mH (0.762m)	3	大谷友梨恵	至学館大	1.00.07
走高跳	3	北島 茉璃	瑞陵高	1.68
三段跳	5	北島 茉璃	瑞陵高	11.66
やり投 (0.600kg)	8	高塚 裕子	名城大附高	45.89

男子ユース

種目	順位	氏名	学校名	記録
100m	7	長田 拓也	豊川高	10.94
	8	高橋 周治	東海高	10.99
200m	4	河室 裕貴	名古屋高	21.21 GR
400m	6	宮崎 海悠	名古屋大谷高	48.71
110mH (0.991m)	4	川浪 駿	名城大附高	14.16
	7	古元 翼	名古屋高	14.38
4×100mR	3	古元 翼	名古屋高	40.97 GR
		河室 裕貴		
		掛川 真		
走幅跳	2	二宮 聡史	岡崎北高	7.08
	6	鈴木 舜也	成章高	6.86
円盤投 (1.750kg)	6	小出 拓実	名古屋高	42.31

女子ユース

種目	順位	氏名	学校名	記録
200m	7	北野 有紀	愛知淑徳高	25.26
100mH (0.838m)	1	萩原加奈子	豊橋南高	14.07
走高跳	3	杉浦 澄美	岡崎城西高	1.69
走幅跳	2	浅井 真子	光ヶ丘女子高	5.73

第42回ジュニアオリンピック陸上競技大会
2011年10月28日(金)～30日(日) 日産スタジアム

男子

種目	氏名	所属	予選	準決勝	決勝	順位
A200m	村瀬 翔太	城山中	22.39	22.57	22.30	①
A 走高跳	水谷 来	朝日丘中			1.92	⑧
C100m	和田 瑞輝	田原中	11.71	11.63	11.68	③
C1500m	内山 将志	五並中	4.22.26		4.19.86	⑧

女子

種目	氏名	所属	予選	準決勝	決勝	順位
A200m	伊藤 南侑	とよたAC	26.05	26.07	26.08	⑦
A 走高跳	松井 紗希	鶴城中			1.61	⑤
B100m	中野 真琴	豊橋東部中	12.61	12.63	12.41	④
B 砲丸投	佐藤 真子	武豊中			12.70	⑦
C100m	掛川 栞	栄中	12.59	12.59	12.43	①
C 走幅跳	明星 光	とよたAC			5.17	④

女子総合成績

部門	順位	学校名	得点
総合	1	中京大中京	63
	2	至学館	30.5
	3	岡崎城西	30
トラックの部	1	中京大中京	63
	2	千種	19
	3	名城大附	19
フィールドの部	1	岡崎城西	18
	2	至学館	13.5
	3	日進西	7.5

第27回日本ジュニア陸上競技選手権大会
第5回日本ユース陸上競技選手権大会
2011年10月21日(金)～23日(日)3日間
名古屋市瑞穂公園陸上競技場 本県8位入賞のみ

男子ジュニア

(GR:大会新)

種目	順位	氏名	学校名	記録
200m	4	寺田 健人	栄徳高	21.41
110mH (1.067m)	3	天野 涼太	中京大	14.15
400mH (0.914m)	3	岡田 壮平	名古屋高	51.53
走高跳	5	川端 哲矢	岡崎城西高	2.06

種目	氏名	所属	予選	準決勝	決勝	順位
ABC円盤投	能澤 照実	守山西中			32.47	⑦
ABCジャベリックスロー	森 風紗	牧の池中			48.81	④
ABC共通 4×100mR	伊藤 南侑	とよた AC	47.71 ①掛川 ②中野 ③河合 ④伊藤	47.81 ①掛川 ②中野 ③河合 ④伊藤	47.67 ①掛川 ②中野 ③河合 ④伊藤	②
	河合 詩菜	安祥中				
	中野 真琴	豊橋東部中				
	松本 扶弥	矢作北中				
	掛川 栞	豊明栄中				
	鈴木 瑞希	扇台中				

第14回東海高等学校新人陸上競技選手権大会
平成23年10月29日(土)・30日(日) 岐阜メモリアルセンター長良川競技場

男子 (3位以内入賞・県分のみ GR:大会新)

種目	順位	氏名	学校名	記録
100m	1	長田 拓也	豊川	10.68
	2	高橋 周治	東海	10.95
	3	河室 裕貴	名古屋	10.96
200m	1	河室 裕貴	名古屋	21.50
	2	宮崎 海悠	名古屋大谷	21.95
	3	丹羽 勇揮	春日井南	22.07
400m	3	名倉 義貴	岡崎北	49.12
1500m	2	吉岡 寛将	瑞陵	4.00.61
	3	木下 雅裕	愛知	4.00.78
5000m	1	伊藤 淑記	中部大第一	15.00.97
	2	佐藤 淳	明和	15.05.30
110mH	1	古元 翼	名古屋	14.92
	2	川浪 駿	名城大附	14.93
400mH	1	下里 功大	愛工大名電	53.81
	2	角田 涼一	中京大中京	54.10
3000mSC	2	佐藤 淳	明和	9.26.66
5000mW	1	山田 康太	愛知	22.04.35 GR
	2	井口 僚太	弥富	22.08.40
4×100mR	1	古元 翼 河室 裕貴 掛川 真 金森 怜也	名古屋	40.93 GR
4×400mR	1	遠藤 圭市 木屋川内浩二 川野 直哉 宮崎 海悠	名古屋大谷	3.16.90
	1	藤城 昇太	三好	1.96
走高跳	2	中村 仁	名古屋大谷	1.96
	2	鈴木 康太	岡崎城西	4.60
棒高跳	2	鈴木 舜也	成章	7.07
走幅跳	3	鈴木 舜也	成章	7.07
円盤投	1	小出 拓実	名古屋	44.29
やり投	1	永井 翔也	長久手	58.77

女子

種目	順位	氏名	学校名	記録
100m	3	丹羽愛利彩	愛工大名電	12.24
200m	2	丹羽愛利彩	愛工大名電	25.42
	3	野村 真由	至学館	25.44
400m	2	櫻山 楓	津島	57.14
	3	吉川 侑希	中京大中京	57.46
800m	2	佐々木明花	岡崎城西	2.16.45
1500m	2	横山友里乃	愛知	4.35.40
	3	村山 菜月	至学館	4.36.02
3000m	1	北本可奈子	千種	9.47.76
	2	松井恵里奈	時習館	9.52.77

種目	順位	氏名	学校名	記録
3000m	3	服部 千秋	千種	9.58.48
100mH	2	萩原加奈子	豊橋南	14.56
400mH	1	吉川 侑希	中京大中京	1.03.11
5000mW	2	宮地 志奈	半田	25.30.53
	3	加藤みづ紀	千種	25.43.32
4×100mR	2	杉山 美貴 早川 有香 吉川 侑希 松井香保里	中京大中京	48.12
走高跳	1	杉浦 澄美	岡崎城西	1.70 GR
	2	金原 智子	安城学園	1.64
走幅跳	1	浅井 真子	光ヶ丘女子	5.66
円盤投	1	安藤かすみ	至学館	33.87
	3	早川 梓	安城農林	32.58
やり投	2	大山 葵	日進西	42.40
	3	加藤紗和子	名城大附	40.69
ハンマー投(オープン)	3	天野 文菜	津島北	34.28

第25回愛知県小学生陸上競技選手権大会
2011年11月3日(木・祝) 名古屋市瑞穂公園陸上競技場

少年 (PR:県最高記録 GR:大会記録)

種目	1位	2位	3位
4年50m	中西 琳哉 7.66 小牧ジュニア	齋藤 岳 7.75 豊橋陸上クラブ	磯本 拓海 7.76 作野 AC
5年100m	ダニエル河内 13.73 安城 JAC	土岐 和也 13.83 作野 AC	北村 祐人 13.83 成岩 SC 陸上
6年100m	大原 康平 12.28 なごや陸上ク	藤本 高壮 12.96 安城 JAC	竹田 健人 13.04 宮田スポ少
5年80mH	氏原 栄樹 15.09 千代田橋 AC	上田 寛夢 15.09 なごや陸上ク	神谷 翼 15.50 刈谷 AC
6年80mH	藤原 慶斗 12.92 作野 AC	松岡 京 12.92 千代田橋 AC	近藤 寛人 13.11 知立ジュニア
6年4×100mR	なごや陸上クラブ 50.33 青木健史郎 西村 太希 西村京一郎 大原 康平	豊橋陸上クラブ A 51.27 外山 零 筒井 幹太 杉山 尚規 高橋 舞羽	安城ジュニア陸上クラブ-A 51.61 本田 和馬 藤本 高壮 吉田 将 江川 誠人
	榑原 圭悟 1.30 成岩 SC 陸上	碓氷 和輝 1.20 YOUKI 陸上	立松 昂也 1.20 布袋陸上ク
6年走高跳	福井 貫汰 1.40 T・S・M	野畑舞愛郎 1.35 知立ジュニア	稲垣圭一郎 1.30 いっしき陸上
4年走幅跳	澤田 佳樹 4.08 JAC 武豊	安部 純平 3.68 作野 AC	斎藤 啓 3.62 なごや陸上ク
5年走幅跳	中野 裕仁 4.89 JAC 武豊	中村 伊吹 4.36 JAC とよあけ	山口 哲太 4.34 千代田橋 AC
6年走幅跳	成田 大門 4.97 宮田スポ少	黒野 敬斗 4.93 いっしき陸上	河西 楓也 4.62 いっしき陸上
5年ソフトボール投	黒野 紀明 53.79 今池 AC	鍛冶梁和輝 52.09 今池 AC	柴原 匠棋 51.62 安城東部 AC
6年ソフトボール投	安部 大誠 57.50 作野 AC	加藤 太一 56.79 桜町クラブ	塩尻浩太郎 54.84 福岡 AC
二種競技 A	青木健史郎 1282 なごや陸上ク	野村 尚弘 1169 安城西部 AC	西村京一郎 1141 なごや陸上ク
二種競技 B	福田 孝輝 1431 JAC 大府	外山 零 1337 豊橋陸上クラブ	山崎 永夢 1284 T・S・M

少女

種目	1位	2位	3位
4年50m	大城 珠莉 7.79 十四山体育ク	中山 愛理 7.92 東浦 AC	土井 優果 7.93 田原陸上クラブ
5年100m	浅岡 陽名 14.03 安城 JAC	米重 美紅 14.14 豊橋陸上クラブ	海藤明日香 14.16 田原陸上クラブ
6年100m	川端 真奈 13.07 GR 安城 JAC	長谷川愛樹 13.19 なごや陸上ク	野村 梨紗 13.78 安城 JAC
5年80mH	蛭川 真未 14.00 成岩 SC 陸上	荒田 和花 15.20 豊橋陸上クラブ	中森 遥香 15.61 安城里町 AC

種目	1位	2位	3位
6年 80mH	原 智聖 13.12 PRGR JAC大府	内田 裕巳 13.58 作野 AC	照井 風香 13.66 安城北部 AC
6年 4×100mR	安城ジュニア陸上クラブ-A 52.55 PR GR 鳥居 夏帆 川端 真奈 森 みくる 野村 梨紗	なごや陸上クラブ 53.27 鈴木 朱音 森田 祐美 猪塚 真希 長谷川愛樹	安城ジュニア陸上クラブ-B 54.50 本多 理子 西村 未来 森永 結衣 片山 菜里
5年 走高跳	成田 朱花 1.30 田原陸上クラブ	和田 桃佳 1.20 成岩 SC陸上	川治 葉月 1.20 安城北部 AC
6年 走高跳	伊奈由莉佳 1.25 豊橋陸上クラブ	仲村はづき 1.20 作野 AC	高井 紀樺 1.15 安城北部 AC
4年 走幅跳	正城 海瑠 3.98 JAC大府	安藤 萌衣 3.80 なごや陸上ク	大道 奏 3.59 知立ジュニア
5年 走幅跳	安藤由梨花 4.09 刈谷 AC	澤井 紅葉 3.86 なごや陸上ク	山本 若奈 3.82 JAC大府
6年 走幅跳	宮川 杏奈 4.44 とよた AC	南野 有紀 4.37 とよた AC	河井かのこ 4.22 布袋陸上ク
5年 ソフトボール投	石垣 綾香 46.39 JAC武豊	垣立 優衣 42.49 T・S・M	高木 希望 41.96 知立ジュニア
6年 ソフトボール投	河合 愛衣 54.24 JAC武豊	中村 天音 49.40 T・S・M	青山 千華 49.09 福岡 AC
二種競技A	永田 佳子 1585 豊橋陸上クラブ	杉山 千紘 1552 T・S・M	松井 葉奈 1478 豊橋陸上クラブ
二種競技B	吉村 月乃 1908 PRGR 東浦 AC	横井さえ香 1453 なごや陸上ク	木村 文香 1423 JACあつみ

男女混合

種目	1位	2位	3位
4年 4×100mR	なごや陸上クラブ 59.62 安藤 萌衣 小島緋奈乃 小林 荘太 大月 翔矢	田原陸上クラブ A 59.80 土井 優果 鈴木 陽向 仲井 康大 彦坂 泰地	TSM A 59.96 藤井 花香 三宅 真生 岩田 真輝 阿部 大夢
5年 4×100mR	安城ジュニア陸上クラブ-A 54.46 成瀬 汐七 浅岡 陽名 中島 亨 ダニエル河内	豊橋陸上クラブ A 54.51 生田奈緒子 米重 美紅 村田 響 松山 卓暉	田原陸上クラブ A 55.92 鈴木 晴菜 海藤明日香 岩川 裕 柴田 大地

第24回全国スポーツ・レクリエーション祭栃木大会
マスタース陸上競技大会
平成23年11月6日(日)～8日(火) 栃木県総合運動公園陸上競技場

単独種目

氏名	年齢クラス	出場種目	順位	記録
岩野 司	M40	100m	4位	12.07
		200m	5位	25.41
井上 和男	M40	1500m	3位	4.28.88
		5000m	2位	16.52.88
		走幅跳 三段跳	1位	6.05 11.49
松原 憲治	M40	走幅跳	1位	6.05
		三段跳	1位	11.49
渡辺 実	M45	100m	1位	11.72
		200m	1位	24.16
柴田 成夫	M45	円盤投	1位	34.45
		砲丸投	3位	9.16
竹之内敦史	M50	100m	8位	13.32
		走高跳	1位	1.41
池田 光司	M50	走幅跳	1位	5.31
		三段跳	2位	11.46
佐野 裕昭	M55	走高跳	2位	1.20
		やり投	3位	31.98
小島 登行	M60	100m		DNS
		走幅跳	12位	3.91
永田 敏也	M65	走幅跳	2位	4.21
		走高跳	3位	1.20

氏名	年齢クラス	出場種目	順位	記録
河村 典雄	M70	200m	5位	33.21
		400m	3位	72.85
土橋 正義	M70	60m	6位	9.52
		100m	6位	15.42
高尾 和男	M75	60m	3位	9.68
		100m	3位	16.06
近藤 陽洲	M75	円盤投	10位	19.64
		砲丸投	1位	10.34
浅井 紀子	W35	100m	1位	13.88
		走幅跳	1位	5.04
金子 葉子	W45	100m	2位	13.73
		200m	1位	27.84
谷寄 好美	W45	800m	2位	3.00.32
		走幅跳	1位	4.61
碓井由紀子	W50	100m	1位	14.16
		200m	1位	29.40
林 啓海	W50	800m	1位	2.53.11
		1500m	4位	6.05.28
渡辺惠彌子	W70	1500m	2位	7.03.32
		3000m	2位	14.13.68
羽根田富美子	W75	円盤投	12位	9.42
		砲丸投	15位	4.75

交流種目

出場種目	出場メンバー	順位	記録
男女混合8×100mR	河村、碓井、小島、池田、金子、竹之内、浅井、岩野	1	1.49.39
男女混合スウェーデンリレー	碓井、小島、金子、井上	3	2.33.64
女子4×100mR	碓井、金子、谷寄、浅井	1	54.12
男子4×100mR	小島、佐野、池田、松原	3	54.20
男女混合ボール投げ	佐野、林、浅井	10	100.12

平成23年度愛知県高等学校駅伝競走大会
男子第60回・女子第22回全国高校駅伝競走大会愛知県予選会
平成23年11月6日(日) 知多運動公園陸上競技場～市道北浜金沢線
(男子：42.195km・女子：21.0975km)

順位	男子		女子	
	学校名	タイム	学校名	タイム
1	豊川工業	2.06.51	豊川	1.08.31
2	豊川	2.08.39	中京大中京	1.10.57
3	中京大中京	2.09.20	岡崎学園	1.12.46
4	愛知	2.09.31	千種	1.14.03
5	惟信	2.12.52	至学館	1.15.39
6	弥富	2.13.26	愛知	1.15.57

男子

(* : 区間新)

区間	氏名	学校名	記録
第1区(10km)	小山 裕太	豊川工業	30.19
第2区(3km)	宮田 峻佑	豊川工業	8.28
第3区(8.1075km)	カルミズク	豊川	*23.17
第4区(8.0875km)	平 和真	豊川工業	24.41
第5区(3km)	金尾 圭祐	豊川工業	*8.22
第6区(5km)	安藤 悠哉	豊川工業	14.58
第7区(5km)	成瀬 雅俊	豊川工業	14.57

女子

区間	氏名	学校名	記録
第1区(6km)	安藤 友香	豊川	19.28
第2区(4.0975km)	加治屋ななこ	豊川	13.39

区 間	氏 名	学校名	記 録
第3区 (3km)	神蘭 佳苗	豊川	9.48
第4区 (3km)	神蘭 奈苗	豊川	10.04
第5区 (5km)	ワインaina ムルギ	豊川	*15.32



豊橋市チーム



東浦町チーム

区間賞 (○数字は区間を示す)

第60回愛知県中学校駅伝大会

平成23年11月19日(土) 新城総合公園

[男子] 距離約18km (6区間) [女子] 距離約11km (5区間)

順位	男 子		女 子	
	学校名	タイム	学校名	タイム
1	石 卷	57.41	祖 父 江	43.51
2	吉 良	58.08	杳 掛	44.28
3	美 川	58.48	末 野 原	44.35
4	岡 崎 南	58.50	豊 川 東 部	44.44
5	豊 川 西 部	59.09	逢 妻	44.54
6	逢 妻	59.16	竜 海	45.04
7	宮 田	59.23	岡 崎 南	45.08
8	岩 倉	59.33	古 知 野	45.09

市の部

- ① 鷺見 梓沙 (豊明)
- ② Patrick Muendo (大府)
- ③ 松永 光雄 (東海)
- ④ 酒井 美有 (豊明)
- ⑤ 飯島 康介 (蒲郡)
- ⑥ 伊藤 礼人 (蒲郡)
- ⑦ 鈴木亜由子 (豊橋)
- ⑧ 鈴木美乃里 (豊橋)
- 清田 真央 (田原)
- ⑨ チャールズ・キバト (刈谷)

町村の部

- ① 田口友喜子 (幸田)
- ② 林 辰也 (大治)
- ③ 富田 一郎 (東浦)
- ④ 猪塚 真希 (東浦)
- ⑤ 山本 航也 (幸田)
- ⑥ 山田 健太 (長久手)
- ⑦ 加古 光江 (東浦)
- ⑧ 西川かりん (武豊)
- ⑨ マイ・ティソン・カルカ (東浦)

男子第60回・女子第22回東海高等学校駅伝競走大会

平成23年11月27日(日)

小笠山総合運動公園静岡スタジアム発着 (男子:42.195km・女子:21.0975km)

順位	男 子		順位	女 子	
	学校名	タイム		学校名	タイム
1	豊川工業	2.08.52	1	豊 川	1.11.16
3	豊 川	2.09.37	2	中京大中京	1.11.43
4	愛 知	2.10.27	3	岡崎学園	1.13.00
6	中京大中京	2.11.39	4	千 種	1.13.22
8	惟 信	2.13.02	13	愛 知	1.15.52
13	弥 富	2.15.22	19	至 学 館	1.18.07

2011年駅伝カーニバル 兼2012年第66回名岐駅伝競走大会予選会

2011年12月11日(日) 庄内緑地公園周回コース

成績 (名岐駅伝出場権獲得チーム)

男子一般

- 1 TTランナーズ 2.01.44
(山口真弘・宍井一滋・小島拓也・白井 智・森下昌英・林 育生)
- 2 館倶楽部 2.03.15
- 3 TWRC 2.03.37
- 4 三菱重工名古屋 2.04.07
- 5 名古屋工業大 2.04.36
- 6 愛知学院大 2.05.08

男子高校

- 1 愛産大三河 1.53.42
(松井駿佑・近藤一希・平川淳悟・伊藤龍馬・鈴木 優・柴田一樹)
- 2 名古屋 1.54.09
- 3 刈谷北 1.54.14
- 4 瑞陵 1.54.51
- 5 星城 1.55.07
- 6 福江 1.55.12
- 7 一宮 1.55.14
- 8 豊田工 1.55.17

区間賞

男子

区 間	氏 名	学校名	記 録
第1区 (10km)	神野 大地	中京大中京	30.15
第2区 (3km)	小山 裕太	豊川工業	8.36
第3区 (8.0975km)	カレミズク	豊 川	23.44
第4区 (8.0975km)	湯田 晟旭	豊川工業	24.53
第5区 (3km)	宮田 峻佑	豊川工業	8.54
第6区 (5km)	於久 幸大	豊川工業	15.19

女子

区 間	氏 名	学校名	記 録
第2区 (4.0975km)	神蘭 佳苗	豊 川	13.48
第3区 (3km)	福沢 志穂	豊 川	10.01
第4区 (3km)	渡邊 喜恵	岡崎学園	10.18
第5区 (5km)	清田 真央	中京大中京	16.50

第5回愛知県市町村対抗駅伝競走大会

2011年12月3日(土) 愛・地球博記念公園

順位	市 の 部		町 村 の 部	
	学校名	タイム	学校名	タイム
1	豊 橋	1.34.37	東 浦	1.40.12
2	名古屋	1.36.03	武 豊	1.40.29
3	田 原	1.36.07	幸 田	1.42.42
4	豊 田	1.36.16	東 郷	1.43.42
5	岡 崎	1.36.31	阿久比	1.44.33
6	豊 川	1.38.55	蟹 江	1.46.04
7	西 尾	1.38.54	扶 桑	1.47.40
8	刈 谷	1.39.04	美 浜	1.47.59
9	大 府	1.39.14	長久手	1.47.59
10	江 南	1.39.21	大 治	1.48.19

理事会等会議報告

○理事会 23年9月30日(金) 18時30分 教育会館

1 協議事項

- 《1号議案》「財団法人化移行」について (清水法人化準備委員長)
- 《2号議案》「定款案」の説明 (準備委員長)
- 《3号議案》「帰属財産の移行について」(準備委員長)
- 《4号議案》「法人評議員候補者の推薦についての承認」(準備委員長)
- 《5号議案》「法人設立役員候補者の推薦」(準備委員長)
- 《6号議案》「各地区の区分けについて」(準備委員長)
名古屋地区・尾張地区・西三河地区・東三河地区の区分け
法人化後は～「支部」を使わず地区協会の名称を使う

ことになる。プログラムにも県と地区協会の併記が必要となります。大会の位置づけや会計もいままで通りです。

2 報告事項

- ① マラソンフェスティバルについて (外山理事長)
 - ② 犬山ハーフマラソンについて (原川尾張理事長)
 - ③ アジア・インターシティ大会結果について (北村強化委員長)
 - ④ 全本中学選手権大会結果について (北村強化委員長)
 - ⑤ 全国小学生大会結果について (外山理事長)
 - ⑥ 日本学生対抗陸上大会結果について (安藤理事)
 - ⑦ 日本選手権大会の立候補について (外山理事長)
- 各委員会報告事項
- ① 記録委員会 (岡田委員長)
 - ② 競技情報処理委員会 (外山理事長)
 - ③ 選手強化委員会 (北村委員長)
 - ④ 総務委員会 (稲垣委員長)
 - ⑤ 年誌資料・広報委員会 (新見委員長)
 - ⑥ 施設用器具委員会 (青木委員長)

○理事会 23年12月7日(水)18時 教育会館

1 協議事項

- ① 愛知県体育協会表彰者の推薦について
稲垣総務委員長より提案し了承される。
- ② 平成24年度競技会等の日程(案)について
安田競技情報処理委員長より提案し概ね了承される。
- ③ 全国都道府県対抗女子・男子駅伝大会の選手選考について
北村強化委員長より提案され了解される。
- ④ 西田・高橋記念室内棒高跳大会について
外山理事長・村瀬副会長より説明。
- ⑤ 法人化準備委員会より
清水法人化準備委員長より定款の説明があり了承される。
- ⑥ その他
特になし

2 報告事項

- ① 各種栄章候補者の推薦について
外山理事長より説明。
- ② 審判員昇格候補者の推薦について
榊原審判委員長より説明。
- ③ ウィメンズマラソン大会について
外山理事長・青木施設用器具委員長より説明。
- ④ 犬山ハーフマラソン大会について
原川尾張理事長より説明。
- ⑤ 名岐駅伝大会について
外山理事長より説明。
- ⑥ 山口国体結果報告
北村強化委員長よりプレゼンにて結果と分析を報告。
- ⑦ JAAF U-12クリニック報告
伊藤強化副委員長より報告。
- ⑧ 日本ジュニア・ユース大会報告
稲垣総務委員長・岡田記録委員長より報告。
- ⑨ ジュニアオリンピック大会の結果報告
久米中体連委員長より報告。
- ⑩ スーパーレディース駅伝大会の結果報告
伊藤強化副委員長より報告。

- ⑪ 全国強化担当者会議の報告
北村強化委員長より報告。
* 各専門委員会報告・その他
特になし

(稲垣 裕)

栄章

おめでとうございます



山口国体で表彰

◎平成23年10月7日(金)～11日(火)第66回国民体育大会「おいでませ!山口国体」にて、会場の山口県維新百年記念公園陸上競技場で表彰式が行なわれました。日本陸上競技

連盟から表彰された方は以下の皆様です。心よりお祝いいたします。

(秩父宮章) …日本陸連・加盟団体への功労者

小椋 征弘(尾張支部長)

(高校優秀指導者章) …高校生指導者としての功労者

稲垣 克憲(至学館高校)

(中学優秀指導者章) …中学生指導者としての功労者

兵藤 重二(豊橋南部中学)

(稲垣 裕)

お く や み

長年本県の陸上競技発展のため多大なるご尽力をいただきまして、ありがとうございました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。(敬称略)

逝去者氏名	逝去年月	支部名
安藤 昌男	23・8	東三河
西尾 義光	23・11	西三河
堀尾 敬介	23・11	尾 張

編 集 後 記

今シーズンは、高校・大学生の活躍で国体で陸上愛知復活のきざしが見てとれた。さらなる活躍を期待したいものだ。また、日本ジュニア・ユース選手権大会の愛知開催も2年目となり、多くの審判の協力による順調な運営に感謝。

今後は、協会の法人化へ向けての準備と、初の「マラソンフェスティバル ナゴヤ・愛知」や2013全日中の開催に対する綿密な準備を重ねていく必要がある。

新年も、愛知陸上界の発展を願ってやまない。それには、各支部・各層の地道な努力が望まれる。一層の努力・協力を期待したい。

編 集 委 員

占部 輝之 大久保真理子 大西 敏功 小坂 拓
榊原 英司 新見 精三 西垣 完彦 野口 一昭
横田小百合